文献目録

朝鮮人・中国人「強制連行」に関する文献目録（2）

（2001年以降）

凡例：本文献目録は、本誌前号に掲載した「微用工問題（朝鮮人・中国人「強制連行」）に関する文献目録（1）」（2000年以前）の続篇である。但し、前回漏れた文献については、2000年以前のものについても追加掲載している。

朝鮮人・中国人「強制連行」に関する戦後の文献を、カテゴリー別に分類し、同一カテゴリーの中で、発行年月の古いものから列挙した。カテゴリーとしては、1（資料・資料集）、2（証言・証言集）、3（運動団体記録・資料）4（戦時徴用一般）、5（「強制連行」「強制労働」一般）、6（朝鮮人「強制連行」）、7（中国人「強制連行」）、8（戦後補償・戦後補償裁判）に分けた。

殆どの文献は「強制連行」「強制労働」の立場に立つものだが、そうでない文献については、一括して4のカテゴリーに分類した。3は特定運動団体の記録・資料類、5は6と7の両者にまたがるもの、もしくはどちらに属するか不明の文献であり、9は「強制連行」にまつわる戦後補償裁判に関する文献である。尚、本目録中の「強制連行」のカテゴリーには、「慰安婦強制連行」は含まれていない。

（勝岡寛次）

1 資料・資料集

No.	著者	「論文タイトル」 『書籍タイトル』	『雑誌名』巻号 発行所	発行 年月
1		『中国人強制連行事件に関する報告書』 第1篇 中国人殉難者名簿 第2篇 第1次～第8次中国人殉難者遺骨送還状況— ポツダム宣言受諾と強制連行事件 第3篇 強制連行ならびに殉難状況	中国人殉難者名簿共同作 成実行委員会	1960-61
2	大蔵省理財局	『日韓請求権問題参考資料』	大蔵省理財局	1963
3		『朝鮮人労務者の動員と徴用経緯について』	『入管管理月報』31	1963.4
4		『日韓会談における韓国の対日請求八項目に関する討 議記録』		1964.1
5	小沢有作編	『在日朝鮮人』近代民衆の記録⑩	新人物往来社	1978.12
6		『戦時強制連行「華鮮労務対策委員会活動記録」』	アジア問題研究所	1981
7	石川準吉	『国家総動員史』上巻 下巻 増補改訂版 補巻	国家総動員史刊行会	1983.2 1986.10 1987.10
8	編集委員会編	『厚生省五十年史』	厚生問題研究会	1988.5
9		『第一回朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える全 国交流会報告集』		1990.12
10		『北海道開拓殉難者調査報告書』	北海道総合開発文化機構	1991.3
11		『朝鮮人強制連行に関する資料』	朝鮮大学校歴史地理学部 朝鮮人強制連行研究会	1991.6

12	樋口雄一編・解説	『協和会関係資料集—戦時下における在日朝鮮人統制と皇民化政策の実態史料』	緑蔭書房	1991.9
13		『第二回朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える全国交流会報告集』	同全国集会実行委員会	1992.6
14	金英達・飛田雄一編	『一九九二年朝鮮人・中国人強制連行・強制労働・資料集』	神戸学生青年センター出版部	1992.7.25
15	金英達	「国会図書館憲政資料室の USSBS 資料群のなかの朝鮮人戦時動員関係の資料について」		1995
16	樋口雄一編・解説	『戦時下朝鮮人労務動員基礎資料集—太平洋戦争下朝鮮における戦時労務動員の実態を示す初の基礎資料集』1～4	緑蔭書房	2000.7
17		『朝鮮労務』（朝鮮労務協会雑誌）全4巻・別冊1	緑蔭書房（復刻）	2000
18		資料「朝鮮人強制連行・強制労働」—日弁連・勸告書と人権擁護委員会報告書	『戦争責任研究』39	2003.3
19	野添憲治	『中国人強制連行・花岡事件関係文献目録』増補版	能代文化出版社	2003.7
20		「日帝強制占領下における強制動員被害真相究明特別法」	『戦争責任研究』45	2004.9
21	長澤秀編	『戦前朝鮮人関係警察資料集』 権太庁警察部文書1（大正15年～昭和9年） 2（昭和10年～12年） 3（昭和16年～17年） 4（昭和18年～20年）	緑蔭書房	2006.6
22		『浮島丸事件訴訟資料集』1 2（政府関連資料1） 8（韓国の市民団体による調査）	宋斗会の会	2006.8 2006.8 2007.2
23	竹内康人編著	『戦時朝鮮人強制労働調査資料集—連行先一覧・全国地図・死亡者名簿』 『朝鮮人強制労働企業現在名一覧』 『戦時朝鮮人強制労働調査資料集2』 『戦時朝鮮人強制労働調査資料集—連行先一覧・全国地図・死亡者名簿』増補改訂版	神戸学生青年センター出版部	2007.8 2012.2 2012.4 2015.1
24	大信田尚一郎	『岩手県内朝鮮人受難者追悼之碑—岩手の朝鮮人強制連行・基礎資料抄録』	『追悼乃碑』管理委員会	2009
25	浅野豊美・吉澤文寿・李東俊編集・解説	『日韓国交正常化問題資料』 基礎資料編 第1巻（日韓会談問題別経緯・重要資料集） 第2巻（日誌・年表） 第3巻（対日賠償関係） 第4巻（講和条約の研究）	現代史料出版	2010.6
26	浅野豊美・吉澤文寿・李東俊編集・解説	『日韓国交正常化問題資料』 第1期（1945年～1953年）第4巻（在日・法的地位問題） 第2期（1953年～1961年）第1巻（代表問対話） 第3期（1961年～1962年）第2巻（請求権）	現代史料出版	2010.12 2012.12 2013.9
27		「資料編 朝鮮人強制労働被害者補償のための財団設立に関する法律(案)」	『市民の科学』3	2011

		「資料編 「朝鮮人強制労働被害者補償法」(仮称)実現について(要請)(2010年5月)」		
28	在日朝鮮人運動史研究会編	『在日朝鮮人史資料集 2』(在日朝鮮人資料叢書:1)	緑蔭書房	2011.5
29	山田昭次編纂	『朝鮮人強制動員関係資料 1』(在日朝鮮人資料叢書:5) 『朝鮮人強制動員関係資料 2』(在日朝鮮人資料叢書:5)	緑蔭書房	2012.7
30	同委員会編	『芦別川河畔強制連行犠牲者遺骨発掘調査報告書』	芦別川河畔強制連行犠牲者遺骨発掘調査実行委員会	2013.5
31	伊藤充久、富田好弘、西秀成、南守夫、八木幸夫 編	『愛知・大府飛行場における中国人強制連行・強制労働—中国での生存者・遺族の聞き取り、愛知及び北海道での調査、地崎組報告書(外務省報告書)全文、追悼・補償の取り組み:調査報告書』改定増補版	愛知・大府飛行場中国人強制連行被害者を支援する会	2013.8
32	竹内康人	『調査・朝鮮人強制労働 1(炭鉱編)』 『調査・朝鮮人強制労働 2(財閥・鉱山編)』 『調査・朝鮮人強制労働 3(発電工事・軍事基地編)』 『調査・朝鮮人強制労働 4(軍需工場・港湾編)』	社会評論社	2013.8 2014.3 2014.9 2015.3
33	強制連行中国人殉難労働者慰霊碑資料集編集委員会編	『強制連行中国人殉難労働者慰霊碑:資料集:戦後70年記念』	日本僑報社	2016.5
34	龍田光司 編纂	『朝鮮人強制動員韓国調査報告 1』(在日朝鮮人資料叢書:13) 『朝鮮人強制動員韓国調査報告 2』(在日朝鮮人資料叢書:13)	緑蔭書房	2016.11

2 証言・証言集

No.	著者	「論文タイトル」 『書籍タイトル』	『雑誌名』巻号 発行所	発行 年月
1	吉田清治	『朝鮮人慰安婦と日本人』	新人物往来社	1972.3
2	藤島宇内	「北海道—強制連行の生証人」	『現代の眼』	1974.2
3	吉田清治	『私の戦争犯罪—朝鮮人強制連行』	三一書房	1983.7
4		『葬られた日本史—朝鮮人強制連行を語る』	「吉田清治さん証言会」 実行委員会	1988.1
5		『アポジ聞かせてあの日のことを—我々の歴史を取り戻す運動』報告書』	在日本大韓民国青年会	1988
6		『証言・資料集 瀬戸地下軍需工場』	瀬戸地下軍需工場を保存する会	1998.7
7	編集委員会編	『百万人の身世打鈴—朝鮮人強制連行・強制労働の「恨」』	東方出版	1999.12

8	明神駆	「初めての戦後補償訪朝団調査より」 (戦争被害者の証言(上)) (下)	『マスコミ市民』 388 389	2001.5 2001.6
9	伊藤孝司 文・ 写真	『平壤からの告発—日本軍「慰安婦」・強制連行被害者の 叫び』(風媒社ブックレット11)	風媒社	2001.7
10	松代大本営労 働証言集編集 委員会 編	『岩陰の語り：松代大本営工場の労働証言』	郷土出版社	2001.8
11	姜金順	「にんげんドキュメント 最後の語り部—朝鮮人強制連行 の歴史を語り、平和への祈り 姜金順(カン・クムスン)イ ンタビュー」	『Active』4	2002.4.1
12	玉井久也	「別子銅山に連行された中国人—強制連行中国人「劳工」 からの聞き取り調査報告」	『季刊中国』69	2002.夏
13	伊藤孝司 文・ 写真	『平壤からの告発 統一日本軍「慰安婦」・強制連行被害 者の叫び 2』(風媒社ブックレット12)	風媒社	2002.10
14	鈴木賢士	「裁かれる中国人強制連行—生き証人たちは語る」	『ひろばユニオン』497	2003.7
15	鈴木賢士 写 真・文	『中国人強制連行の生き証人たち』	高文研	2003.8
16	馬奈木巖太郎	「記録 中国人戦争犠牲者の証言記録」	『法律時報』76-1	2004.1
17		「強制連行・強制労働被害者の証言」(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10)	『統一評論』459 460 461 462 463 464 466 467 468 469	2004.1 2004.2 2004.3 2004.4 2004.5 2004.6 2004.8 2004.9 2004.10 2004.11
18	大木仲治	「証言/劳工狩り 強制労働のため農民拉致」	『中帰連』29	2004.夏
19	鈴木賢士	「中国人強制連行の生き証人 肖像と証言」	『中帰連』29	2004.夏
20	小山一郎	「証言 強制連行作戦と日の丸」	『中帰連』32	2005.春
21	鈴木賢士	「グラビア 中国人強制連行の生き証人」	『前衛』792	2005.7
22	野添憲治編著	『秋田県における朝鮮人強制連行—証言と調査の記録』	社会評論社	2005.11
23	福留範昭	「朝鮮人強制動員犠牲者の遺族の声を聴く—韓国・朝鮮の 遺族とともに—遺骨問題の解決へ 2006 夏」	『戦争責任研究』54	2006.12
24	富樫利一	『血価の証言—北海道・角田砦における中国人強制労働の 実態』	彩流社	2008.4
25	芝竹夫 編著	『次世代へのメッセージ—妻来善さんの遺言』	無窮花の会	2008.9
26	龍田光司	「常磐炭田朝鮮人戦時動員被害者と遺族からの聞き取り 調査」	『在日朝鮮人史研究』39	2009.10
27	谷勝三	「地底からの呻き声—遠く離れた異国の地に眠る遺骨の 真相を求めて—強制労働・強制連行犠牲者の証言と遺骨発 掘」	『進歩と改革』695	2009.11

28	長澤秀	「『二重徴用』炭鉱夫遺家族からの聞き書き」	『在日朝鮮人史研究』40	20010.10
29	塚崎昌之	「アジア太平洋戦争下の大阪府協和会・協和協力会・興生会の活動と朝鮮人一戦時動員体制への「親日派」朝鮮人の対応を中心として」	『東アジア研究』54	2010
30	金景鳳 述	「強制連行・強制労働を記録する 歴史の生き証人として、恨を記録し伝えたい」(李修京 編『海を越える一〇〇年の記憶一日韓朝の過去清算と争いのない明日のために』所収)	図書新聞	2011.11
31	李修京 述	「長生炭鉱の歴史は、凄惨な戦争と強制労働の実態を物語っている」(李修京 編『海を越える一〇〇年の記憶一日韓朝の過去清算と争いのない明日のために』所収)	図書新聞	2011.11
32	戸塚秀夫	「戦時労務動員体制下の「別天地」—在日朝鮮人朴麟植氏の証言を辿って」	『大原社会問題研究所雑誌』638	2011.12
33	川瀬俊治	「戦後：いまだ終わらず—韓国での強制連行・強制労働被害者聞き取り調査に参加して」(上) (下)	『部落解放』667 668	2012.9 2012.10
34	龍田光司	「常磐炭田朝鮮人戦時動員被害者を訪ねて—韓国での調査報告から」(古庄正先生追悼号)	『在日朝鮮人史研究』42	2012.10
35		『韓国聞き取り調査報告』	長野県強制労働調査ネットワーク	2013
36	河かおる	「滋賀県における朝鮮人強制動員の記録(1)—韓国における生存者の聞き取り調査より」 (2) (3) (4)	『人間文化』33 34 37 38	2013.3 2013.10 2014.10 2015.3
37	崔小岩	「朝鮮人証言 生き地獄の強制労働」(語りつぐ戦争(9))	『ひろばユニオン』663	2017.5

3 運動団体記録・資料

No.	著者	「論文タイトル」 『書籍タイトル』	『雑誌名』巻号 発行所	発行 年月
1		『第二海軍航空廠と朝鮮人労働者』1・2	神奈川県朝鮮人強制連行真相調査団	1991
2		『京都府の朝鮮人強制連行』1 2	京都府朝鮮人強制連行真相調査団	1991 1993
3	朝鮮人強制連行真相調査団編	『朝鮮人強制連行真相調査団全国交流集会資料集』		1992.1.20
4	同上	『各地の朝鮮人強制連行調査団の活動』	全国連絡協議会	1992.4
5	同上	『朝鮮人強制連行真相調査団全国連絡協議会—中央本部の活動』	全国連絡協議会	1992.4
6	同上	『各地の朝鮮人強制連行真相調査団の活動—一九九〇年十一月十六日以降—一九九二年三月三十一日まで』		1992.4

		の報道記事から』		
7	同上	『朝鮮人強制連行真相調査団全国連絡協議会・中央本部の活動—一九九〇年七月—一九九二年三月までの新聞報道から』		1992.4
8	同上	『朝鮮人強制連行真相調査団 一九七〇年代の活動』	全国連絡協議会	1992.5
9		『朝鮮人「強制連行」大分県の記録』	大分県朝鮮人強制連行真相調査団	1993
10		『活動記録資料集』	愛知県朝鮮人強制連行真相調査団	1994
11		『朝鮮人強制連行調査の記録』 『続・朝鮮人強制連行調査の記録』	山口県朝鮮人強制連行真相調査団	1994 1995
12		『朝鮮人強制連行の傷跡』	静岡県朝鮮人強制連行真相調査団	1995
13		『あの忌まわしい過去は再び繰り返されてはならない』	西東京朝鮮人強制連行真相調査団	1997
14		『朝鮮人強制連行調査の記録 埼玉編 中間報告』	埼玉県朝鮮人強制連行真相調査団	1998
15	朝鮮人強制連行真相調査団編著	『朝鮮人強制連行調査の記録 中国編』 『朝鮮人強制連行調査の記録 関東編 1』	柏書房	2001.3 2002.6
16	明神駆	「初めての戦後補償訪朝団調査より」(戦争被害者の証言(上)(下))	『マスコミ市民』388 389	2001.5 2001.6
17	伊藤孝司	「戦後補償市民代表団の初訪朝」(平壤からの告発第4弾)	『金曜日』9-18	2001.5.18
18	鄭泰和、戦後補償市民訪朝団	「鄭泰和朝日交渉特命全権大使に聞く一日朝交渉の問題点と朝鮮民主主義共和国の立場」	『労働運動研究』380	2001.6
19	愛知県朝鮮人強制連行真相調査団	「朝鮮半島北部からの強制連行と「被保険者名簿」(日本の過去の清算を求めるアジア地域シンポジウム)」	『統一評論』442	2002.7
20	朝鮮人強制連行真相調査団編	『朝鮮人強制連行・強制労働—日本弁護士連合会勧告と調査報告』(資料集14) 『戦後60年犠牲者を遺族の元に』(資料集16)	朝鮮人強制連行真相調査団	2002 2005.1
21	秋田県朝鮮人強制連行真相調査団	『第一回・朝鮮人強制連行者のいた現場を歩く会』 『第二回・朝鮮人強制連行者のいた現場を歩く会』 『第三回朝鮮人強制連行者のいた現場を歩く会・第一回能代市山本郡内の戦争の跡を歩く会』 『第五回朝鮮人強制連行者のいた現場を歩く会・第二回能代市山本郡内の戦争の跡を歩く会』		2003.7 2003.10 2003.12 2004.12
22	福留範昭	「「強制動員真相究明ネットワーク」の設立にあたって」	『戦争責任研究』49	2005.9
23	飛田雄一	「強制動員真相究明ネットワークの課題」	『戦争責任研究』51	2006.3
24	福留範昭	「特集にあたって—朝鮮人強制連行真相究明の課題」	『戦争責任研究』55	2007.3
25	同調査団	『発盛精錬所と朝鮮人強制連行』	秋田県朝鮮人強制連行真相調査団	2007.6

26	福留範昭	「日帝強占下強制動員被害真相究明委員会主催ワークショップ 日本に残された朝鮮人労働者の遺骨」(上) (下)	『統一評論』 526 527	2009.8 2009.9
27	同委員会編、竹内康人 訳	『日本の長崎県・崎戸町「埋火葬認許証」記載朝鮮人死亡者問題の真相調査』	対日抗争期強制動員被害調査及び国外強制動員犠牲者等支援委員会	2013.3
28	李一満	「第6回強制動員真相究明全国研究集会開催 強制動員真相究明の到達点と今後の課題」	『統一評論』 571	2013.5
29	殿平善彦	「強制動員真相究明第6回全国研究集会 犠牲者の遺骨を遺族のもとへ—北海道における遺骨問題の取り組みの現況と展望」	『統一評論』 571	2013.5
30	矢野秀喜	「強制動員真相究明第6回全国研究集会 強制労働被害者補償立法をめざす日韓共同行動」	『統一評論』 571	2013.5
31	川瀬俊治	「強制動員真相究明の到達点と今後の課題」を論議—第六回全国研究集会で二人が発表」	『部落解放』 678	2013.6
32	野添憲治編著	『秋田県の朝鮮人強制連行—52カ所の現場・写真・地図』	秋田県朝鮮人強制連行真相調査団	2015.7
33	同委員会編、大和裕美子、金炳辰、堤美貴 訳	『日本の長生炭鉱水没事故に関する真相調査』	対日抗争期強制動員被害調査及び国外強制動員犠牲者等支援委員会	2015.12
34	吉澤文寿	「朝鮮人強制連行関連地域における市民運動の取り組み」	『新潟国際情報大学国際学部紀要』 1	2016.4
35		『委員会活動結果報告書』	対日抗争期強制動員被害調査及び国外強制動員犠牲者等支援委員会	2016.6

4 戦時徴用一般（「強制連行」「強制労働」と立場を異にする文献）

【一般】

No.	著者	「論文タイトル」 『書籍タイトル』	『雑誌名』巻号 発行所	発行 年月
1	黄文雄	「誇り高き台湾少年工と「強制連行」どころか勝手に日本に殺到した朝鮮人の落差」	『正論』 371	2003.6

【朝鮮人の徴用】

No.	著者	「論文タイトル」 『書籍タイトル』	『雑誌名』巻号 発行所	発行 年月
2	崔吉城、広島大学	『北東アジアにおける日本植民地と民族移動に関する文化人類学的な研究』	文部省科学研究費補助金研究成果報告書	2000-2001

3		「朝鮮人「強制連行」問題とは何か」(上) (下)	『明日への選択』202 203	2002.11 2002.12
4	新井佐和子	「「強制連行」を考えるために」(1) (2) (3) (4)	『現代 코리아』427 428 429 430	2002.12 2003.1/2 2003.3 2003.4
5	鄭大均	「拉致と強制連行を同列に論じるな」	『中央公論』1423	2002.12
6	西岡力	「戦後の朝鮮人引き揚げの具体的状況」	『月曜評論』13	2003.1
7	福田和也	「あまりにテレビ的な! 田原総一朗氏の「歴史観」を問う—「拉致」と「強制連行」を対比する愚」	『文藝春秋』81-2	2003.2
8	坪井幸生、大師堂経慰、石川水穂	「特別対談 北朝鮮・反日勢力のプロパガンダのウソを暴く! 一元朝鮮総督府幹部が「強制連行」に反論する」	『正論』368	2003.3
9		「「朝鮮人強制連行」論の歴史認識を問う」	『明日への選択』206	2003.3
10	岡田邦弘	「朝鮮人強制連行—朝鮮人は徴用されたのか、強制連行されたのか」	『諸君!』35-7	2003.7
11	岡田邦宏	『朝鮮人強制連行はあったのか—事実が語る「強制連行」説の虚構』	日本政策研究センター	2003.9
12		「近隣諸国条項が生んだセンター試験「強制連行」問題」	『明日への選択』218	2004.3
13	藤岡信勝	「これでは「レフト試験」だ 入試を利用した「強制連行」の強制を許さない」	『正論』382	2004.4
14		「「中国人強制連行」不当判決の背景」	『明日への選択』220	2004.5
15	鄭大均	『在日・強制連行の神話』(文春新書)	文藝春秋	2004.6
16	鄭大均	「強制連行という神話—「在日」はいかにして日本にやってきたか」	『正論』386	2004.8
17	鄭大均	「「強制連行」は作られた物語」(巻頭インタビュー)	『明日への選択』223	2004.8
18	高市早苗	「教科書から「従軍慰安婦」「強制連行」という用語が減ってなぜ悪いのか」	『正論』394	2005.3
19	西岡力	『日韓「歴史問題」の真実—「朝鮮人強制連行」「慰安婦問題」を捏造したのは誰か』	PHP研究所	2005.6
20	深町純亮監修、佐谷正幸著	『炭鉱の真実と栄光—朝鮮人強制連行の虚構』	日本会議福岡筑豊支部	2005.12
21		「放置できない北朝鮮のウソ—確認しておくべき「従軍慰安婦」と「強制連行」に関する基本的事実」	『明日への選択』243	2006.4
22	鄭大均	「「在日韓国&朝鮮人は『強制連行』の子孫だ」と言われたら」	『諸君!』38-4	2006.4
23	岡田邦弘	「朝鮮人は強制連行されたのか」(秦郁彦編『昭和史20の争点—日本人の常識』所収、文春文庫)	文藝春秋	2006.8
24	水間政憲	「真犯人 新史料発掘!—当時の朝鮮紙が報道していた極悪「朝鮮人業者」強制連行の動かぬ証拠」	『Sapio』19-10	2007.5.9
25	水間政憲	「「強制連行」どころか、朝鮮人は密航までして日本を目指した」(朝日新聞〈朝鮮版〉の研究(第3弾))	『Sapio』21-10	2009.5.27/ 6.3
26	南木隆治	「大阪城公園に強制連行の文字—「もっと日本の加害を!」総連の圧力に屈す」	『歴史と教育』145	2010.7

27	荒木信子	「韓国人よ、頭を冷やして聞きなさい！ 内地渡航の実態が物語る「日本への憧れ」―「強制連行」など不要だった」（官製資料でみる日本の半島統治(2)）	『正論』492	2013.1
28	ブランドン・パーマー 著、塩谷紘 訳	『検証日本統治下朝鮮の戦時動員―1937-1945』	草思社	2014.10
29	榊原喜廣	「虚構「強制連行」の汚名払拭を急げ」（時代の視点）	『月刊カレント』51-10	2014.10
30	的場三昭	『反日石碑テロとの闘い―「中国人・朝鮮人強制連行」のウソを暴く』	展転社	2015.4
31	西岡力	「歴史戦争の認識なき外務省がもたらす禍根―「戦時微用工」を第二の「慰安婦」にしてはならぬ」	『正論』526	2015.9
32	三浦小太郎	「慰安婦の次は戦時動員―またぞろ「強制連行」に火をつけるのか（初秋特大号）」（朝日新聞解体新書(第10回)）	『正論』527	2015.10
33	山岡鉄秀	「言わんこっちゃない！ 韓国の「戦時微用工」申請を招いたオウンゴール症候群」	『正論』528	2015.11
34	安倍南牛	「虚妄の「強制連行」論が隠した在日の過去」	『正論』528	2015.11
35	小川茂樹	「世界遺産「軍艦島」を反日プロパガンダの道具にするな！」	『ジャパニズム』32	2016.8
36	櫻井よしこ	「産業革命遺産の軍艦島を見て分かった「監獄島ではなかった」の確からしさ」（新世紀の風をおこす オピニオン縦横無尽(Number 1157)）	『週刊ダイヤモンド』104-44	2016.11.12
37	三輪宗弘	「ユネスコも啞然？―韓国「日帝強制動員歴史館」の嘘八百」	『歴史通』47	2017.4
38	竹中明洋	「日韓合意は反故にされ、さらに「反日」がエスカレート―慰安婦像の隣りに今度は微用工像が建てられる！」	『Sapio』29-6	2017.5
39	杉田水脈	「スクープ！ 今度は日本に「強制微用工」の像が…」	『正論』547	2017.6
40	櫻井よしこ	「間違いなく波紋呼ぶ韓国映画「軍艦島」―闘い止めれば捏造された歴史が定着する」（新世紀の風をおこす オピニオン縦横無尽(Number 1188)）	『週刊ダイヤモンド』105-25	2017.7.1
41	櫻井よしこ	「韓国大統領が再び問題化した「微用工」―日本は過去の経緯踏まえしっかり主張を」（新世紀の風をおこす オピニオン縦横無尽(Number 1195)）	『週刊ダイヤモンド』105-32	2017.8.26
42	杉田水脈	「どこが「地獄の島」だ？ 世界遺産「軍艦島」を韓国映画の捏造から守ろう―作り話だけの「軍艦島」がついに韓国で公開…」	『正論』550	2017.9
43	日下公人	「“捏造”された軍艦島への強制連行―法治を理解しない中韓への“村度”は不要」	『Voice』477	2017.9
44	岡田邦宏	「「慰安婦」の次は「微用工」問題」	『明日への選択』380	2017.9
45	西岡力	『ゆすり、たかりの国家』	ワック	2017.10
46	杉田水脈	『韓国人の皆さん「強制連行された」で本当にいいの？』	育鵬社	2017.10
47	西岡力	「韓国の大作映画『軍艦島』微用工の嘘」	『Hanada』17	2017.10
48	櫻井よしこ	「直言 日本は映画『軍艦島』と微用工のウソを世界に訴えなければならぬ―国家戦略として歴史を捏造する国とどう付き合うべきか」	『Sapio』29-11	2017.10

49	日下公人	「韓国「微用工」問題、霞が関の怠慢—官僚と左派マスコミが醸成してきた韓国の”悪しき伝統”」	『Voice』 478	2017.10
50	竹中明洋	「新たな火種 ソウル日本大使館前に設置される像の設計図をスクープ入手—慰安婦像、微用工像を作って世界に拡散させるキム夫妻を直撃！」	『Sapio』 29-11	2017.10
51	長勢了治	「軍艦島 朝鮮人は強制労働のウソ—シベリア抑留と対比し検証する」	『WiLL』 155	2017.11
52	鄭大均	「微用工は不幸だったのか」(1)—軍艦島 「朝鮮人は不幸だったのか」(2)—戦時動員 (3)—密航の時代 (4)—密航の時代 (5)—密航の時代	『Hanada』 18 19 20 21 22	2017.11 2017.12 2018.1 2018.2 2018.3
53	安部南牛	「微用工が韓国の近代製鉄所をつくった」	『正論』 554	2018.1
54	西岡力	「朝鮮人戦時動員に関する統計的分析」	『歴史認識問題研究』 2	2018.3
55	松木國俊	『軍艦島 韓国に傷つけられた世界遺産—「慰安婦」に続く「微用工」という新たな「捏造の歴史」』	ハート出版	2018.9

【華人労務者】

No.	著者	「論文タイトル」 『書籍タイトル』	『雑誌名』巻号 発行所	発行 年月
56	田辺敏雄	「旧日本軍将校が証言する—「中国人八千人強制連行」のウソ」	『正論』 301	1997.9
57	田辺敏雄	「朝日・岩波が報じる「中国戦犯供述書」の信用度」	『正論』 310	1998.6
58	田辺敏雄	「3500万人死傷の根拠「万人坑」デッチ上げのカラクリ」	『Sapio』 14-9	2002.5.8
59	田辺敏雄	『検証 旧日本軍の「悪行」—歪められた歴史像を見直す』	自由社	2003.1
60		「「中国人強制連行」とは何か」	『明日への選択』 223	2004.8
61	田辺敏雄	「「劳工狩り」証言は作り話」(人物交差点第127回)	『明日への選択』 224	2004.9
62	田辺敏雄	『「中国の旅」批判—ヒト捨て場「万人坑」は存在しなかった』	『正論』 515	2014.12

【戦後補償裁判】

No.	著者	「論文タイトル」 『書籍タイトル』	『雑誌名』巻号 発行所	発行 年月
63	阿羅健一	「もてあそばれた「兵補」—インドネシアに於ける“補償”のカラクリ」	『正論』 295	1997.3
64		「戦後補償裁判の動向—過去二年間の判例に見える危険な兆候」	『祖国と青年』 271	2001.4
65	佐藤和男	「劉連仁「戦後補償」裁判の主要争点—戦後の救済義務違反への国の責任を認めた東京地裁判決を批判する」	『祖国と青年』 277	2001.10
66	木佐芳男	「戦後補償—日本の「戦後補償」はドイツに及ばないのか」	『諸君!』 35-7	2003.7
67	稲田朋美	「靖国と強制連行判決、司法が開けた亡国の扉」	『正論』 384	2004.6
68	藤岡信勝 高池勝彦 石川水穂	「鼎談「戦後補償」裁判大検証—軽々しく歴史を裁く司法に正義なし」	『正論』 389	2004.11

69	喜多由浩	「戦後補償」の亡霊にとりつかれた日本のサハリン支援	『正論』392	2005.1
70	木佐芳男	「日本の「戦後補償」はドイツに及ばないのか」(秦郁彦編『昭和史 20の争点—日本人の常識』所収、文春文庫)	文藝春秋	2006.8
71	阿羅健一	「シリーズ現代日本にはびこる迷信(8)—「戦後補償」の仕掛け人」	『国体文化』988	2006.8
72	稲田朋美	「プロパガンダ「戦後補償裁判」で次々乱訴する市民団体・弁護団の「負けて勝つ」法廷戦術に踊らされるな」	『Sapio』19-14	2007.6.27
73	新井佐和子	「またぞろ「戦後補償」を叫んで動き始めた“人権派弁護士”」	『正論』427	2007.10
74	シュテファン・ゼーベル	「戦後日本における市民運動と戦後補償に関する考察」	『日独研究論集』2	2007
75	丸山和也	「戦時微用工賠償訴訟 韓国には一銭も払う必要なし!」	『WiLL』109	2014.1
76	高池勝彦	「戦後補償判決・法の支配・法の伝統」	『伝統と革新』14	2014.1

5 「強制連行」「強制労働」一般

No.	著者	「論文タイトル」 『書籍タイトル』	『雑誌名』巻号 発行所	発行 年月
1	隅谷三喜男	「石炭鉱業の生産力と労働者階級—戦時戦後の炭鉱労働を廻って」(矢内原忠雄編『東京大学経済学部創立三十周年記念論文集 第二部戦後日本経済の諸問題』所収)	有斐閣	1949
2		『炭鉱下請の研究』(研究調査報告第120号)	北海道立労働科学研究所	1959
3	松村高夫	「日本帝国主義下における植民地労働者—在日朝鮮人・中国人労働者を中心にして」	『経済学年報』10	1967.3
4	田中直樹	「太平洋戦争前夜における炭鉱労働者について—石炭連合会資料を中心にして」	『三田経済学研究』	1968
5	山田昭次	「朝鮮人・中国人強制連行研究史試論」(旗田巍先生古稀記念会編『朝鮮歴史論集』下巻所収)	龍溪書舎	1979.3
6	相沢一正	「茨城県における朝鮮人・中国人強制連行に関するノート」	『茨城県立歴史館報』9	1982
7	田中直樹	『近代日本炭鉱労働史研究』	草風館	1984.10
8	矢野久	「強制連行・強制労働の日独比較」	『戦争責任研究』33	2001.9
9	卞東運	「北海道で強制労働犠牲者百一人の名簿・遺骨発見—「強制連行」の実態解明へ勢いづくか」	『アプロ 21』6-10	2002.11/12
10	小坂橋二郎	「拉致と強制連行」(マスコミつれづれ日記 32)	『Verdad』8-12	2002.12
11	神戸港における戦時下朝鮮人・中国人強制連行を調査する会 編	『神戸港強制連行の記録—朝鮮人・中国人そして連合軍捕虜』(世界人権問題叢書 48)	明石書店	2004.1

12	同上 編	『アジア・太平洋戦争と神戸港—朝鮮人・中国人・連合軍捕虜』	神戸港における戦時下朝鮮人・中国人強制連行を調査する会	2004.2
13	井上薫	「北海道 強制連行犠牲者からの学びと出会い」（地域からの発信 23）	『教育』 54-4	2004.4
14	柴崎律	「拉致と強制連行は相殺できない—あわせて拉致被害者帰国問題を考える」	『人権と教育』 40	2004.5
15	栗原省	「『拉致』と『強制連行』（『恨』をめぐって(4)）	『月刊人権問題』 331	2004.7
16	鈴木千慧子	「大東亜共栄圏の実態(強制連行)」（教科書から消される「戦争」—第1部 これが消されていく「戦争の歴史」だ）	『金曜日』 12-39	2004.10.1
17	小川正	「環境改善から見放された街—強制労働の歴史が沈む川崎市池上町」	『金曜日』 12-40	2004.10.8
18	森山軍治郎	「炭鉱の労働者群像—強制連行・強制労働との関連で」	『飛礫』 41	2004.冬
19	後藤竜二 文、 高田三郎 絵	『紅玉』（絵本）	新日本出版社	2005.9
20	松本克美	「検討 中国人・朝鮮人強制連行・強制労働問題を検証する」（1）時効問題	『労働法律旬報』 1614	2005.12
21	内海愛子	「強いられた移動—帝国の中の労務動員」（『帝国の戦争経験』岩波講座 アジア・太平洋戦争 4 所収）	岩波書店	2006.2
22	安井三吉	「神戸港にみる強制連行」（『帝国の戦争経験』岩波講座 アジア・太平洋戦争 4 所収）	岩波書店	2006.2
23	愛知県史編さん委員会 編	「戦時動員体制と朝鮮人・中国人」（『愛知県史 資料編 27(近代 4)』第六章第六節所収）	愛知県	2006.3
24	飛田雄一	「強制連行真相究明運動の展望」	『飛礫』 50	2006.春
25	上杉聡	「『強制連行』と『拉致』の概念をめぐって」	『戦争責任研究』 55	2007.3
26	樋口雄一	【資料紹介】「台湾における台湾外への戦時労働動員」	『戦争責任研究』 55	2007.3
27	松村高夫	『日本帝国主義下の植民地労働史』	不二出版	2007.5
28	矢野久	「日本の植民地労働者の強制労働—日独の比較社会史の観点から」	『三田学会雑誌』 100-4	2008.1
29	飛田雄一	「〈神戸港・平和の碑〉建立と朝鮮人・中国人・連合軍捕虜の強制労働」	『科学的社会主義』 124	2008.8
30	野添憲治	「写真が語る強制連行の裏面」	『マスコミ市民』 479	2008.12
31	矢野久	「日本植民地労働者の強制労働」（記録集編集委員会 編『南京事件 70 周年国際シンポジウムの記録—過去と向き合い、東アジアの和解と平和を』所収）	日本評論社	2009.2
32	飛田雄一	「アジア・太平洋戦争下、神戸港における朝鮮人・中国人・連合軍捕虜の強制連行・強制労働」	世界人権問題研究センター『研究紀要』 14	2009.3
33	西成田豊	『労働力動員と強制連行』（日本史リブレット 99）	山川出版社	2009.8
34	前田朗	「強制連行は人道に対する罪」（1） （2）	『統一評論』 530 531	2009.12 2010.1
35	相沢一正	『茨城県における朝鮮人中国人の強制連行』	ロゴス	2011.5
36	林耕二	「強制連行からの脱出考」	『大阪民衆史研究』 67	2012.12
37	吉原和男 編者 代表	『人の移動事典—日本からアジアへ・アジアから日本へ』	丸善出版	2013.11

38	西川有司	「強制連行と鉱山」(資源と法(25))	『時の法令』1955	2014.6.15
----	------	---------------------	------------	-----------

6 朝鮮人「強制連行」

a 朝鮮人「強制連行」一般

No.	著者	「論文タイトル」 『書籍タイトル』	『雑誌名』巻号 発行所	発行 年月
1	鎌田澤一郎	『朝鮮新話』	創元社	1950
2	藤島宇大	「朝鮮と日本人—極東の緊張と日・米帝国主義」	『世界』177	1960.9
3	朴慶植	『太平洋戦争中における朝鮮人労働者の強制連行について—日本帝国主義の爪跡』	朝鮮大学校地理歴史学科	1962.3
4		『兄弟よ安らかに眠れ「朝鮮人殉難」の真相』	福岡県在日朝鮮人殉難者慰霊祭実行委員会	1963
5		『長野県における朝鮮人強制連行の実態調査について』	信州大学朝鮮文化研究会	1967
6	田中直樹	「第二次大戦前夜 炭鉱における朝鮮人労働者」	『朝鮮研究』72	1968.4
7		『太平洋戦争中の細倉鉱山における朝鮮人労働者の実態』	日朝協会仙台支部	1968
8	松村高夫	「日本帝国主義下における「満州」への朝鮮人移動について」	『三田学会雑誌』63-6	1970.6
9	依田憲家	「第二次大戦下、朝鮮人強制連行と労務対策」	『社会科学討究』17-2	1971.12
10		『ホッカイドー！ホッカイドー！生きて再び帰れぬ地』	北海道在日朝鮮人の人権を守る会	1972
11	小池喜孝	『鎖塚—自由民権と囚人労働の記録』	現代史資料センター出版会	1973
12	山田昭次	「太平洋戦争下の朝鮮人強制連行と日韓問題」	『法学セミナー』232	1974.12
13	長澤秀	「常磐炭田における朝鮮人労働者について」	『駿台史学』40	1977.3
14	戸塚秀夫	「日本帝国主義の崩壊と“移入朝鮮人”労働者—石炭産業における一事例研究」(隅谷三喜男編著『日本労使関係論』所収)	東京大学出版会	1977.9
15		『北海道の民衆史掘り起し運動』	北海道歴史教育者協議会	1977
16		『相模湖ダムの歴史を記録する会 中間報告』	相模湖ダムを記録する会	1977
17		『松代大本営工事朝鮮人強制連行・強制労働の実態調査報告書』	長野県朝鮮人強制連行・強制労働調査準備会	1977
18		『戦時下松本市里山辺における朝鮮人強制連行・強制労働の実態調査報告書』	同上	1977

19		『調査報告・中島飛行機吉見地下工場』	中島飛行機朝鮮人強制連行の歴史を調査する会	1977
20	藤原彰	「日本軍と朝鮮人」	『季刊三千里』14	1978 夏
21	金贊汀	『雨の慟哭—在日朝鮮人土工の生活史』	田畑書店	1979.2
22	康成根	「戦時下日本帝国主義の朝鮮農村労働力収奪政策」	『歴史評論』355	1979.11
23	平林久枝	「いまも忘れぬタコ部屋での労働と生活」	『在日朝鮮人史研究』5	1979.12
24	山田昭次	「朝鮮人強制連行調査の旅から」	『季刊三千里』21	1980 春
25	金贊汀	「戦時下在日朝鮮人の反日運動」	『歴史公論』57	1980.8
26	沢田猛・永井大介	「奥天竜における朝鮮人強制連行」	『季刊三千里』29	1982 春
27	梶村秀樹	「海がほけた！—山口県長生炭坑遭難の記録」	『在日朝鮮人史研究』10	1982.7
28	山田昭次	「朝鮮人強制連行の研究—その回顧と展望」	『季刊三千里』31	1982 秋
29	朴慶植	「在日朝鮮人に関する資料と研究動向」	『アジア問題研究所報』創刊号	1983.3
30	佐久間昇	「太平洋戦争下山形県における朝鮮人労働者の強制連行をめぐって」	『山形近代史研究』5	1983.8
31	金贊汀	『浮島丸釜山港へ向かわず』	講談社	1984.5
32	鄭清正	『怨と恨と故国と—わが子に綴る在日朝鮮人の記録』	日本エディタースクール出版部	1984.10
33	佐藤明夫	「中島飛行機半田製作所の朝鮮人徴用工」（半田空襲と戦争を記録する会編『半田空襲の記録』所収）	半田市	1985.3
34	石田真弓	『故郷はるかに—常磐炭礦の朝鮮人労働者との出会い』	アジア問題研究所	1985.4
35	沢田猛	『石の肺—ある鉱山労働者たちの叫び』	技術と人間	1985.10
36	古庄正	「在日朝鮮人労働者の賠償要求と政府および資本家団体の対応」	『社会科学討究』31-2	1986.1
37	樋口雄一	『協和会—戦時下朝鮮人統制組織の研究』（天皇制論叢5）	社会評論社	1986.7
38	和田登	「松代「大本営」と強制連行」	『季刊三千里』47	1986 秋
39	佐藤泰治	「新潟県における朝鮮人労働者の処遇」	『魚沼文化』27	1987.2
40	遠藤公嗣	「戦時下の朝鮮人労働者連行政策の展開と労使関係」	『歴史学研究』567	1987.5
41	長澤秀	「戦時下常磐炭田における朝鮮人鉱夫の労働と闘い」	『史苑』47-1	1987.6
42	原英章	「戦前・戦時下の下伊那における朝鮮人労働者の実態の掘りおこし」	『伊那』	1987.6
43	和田登編著	『図録・松代大本営—幻の大本営の秘密を探る』	郷土出版社	1987.7
44	金贊汀	『関釜連絡船—海峡を渡った朝鮮人』	朝日新聞社	1988.5
45		『悲しみを繰り返さないようにここに真実を刻む』	東南海地震旧三菱名航道德工場犠牲者追悼実行委員会	1988
46		『浮島丸事件の記録』	浮島丸殉難者追討実行委員会	1989.8
47	内藤正中	『日本海地域の在日朝鮮人—在日朝鮮人の地域研究』	多賀出版	1989.9

48	立教大学史学科 山田ゼミナール 編	「生きぬいた証に一ハンセン病療養所多磨全生園朝鮮人・韓国人の記録」	緑蔭書房	1989.9
49	金浩	「日本軽金属(株)による富士川水電工事と朝鮮人労働者 動員」	『在日朝鮮人史研究』19	1989.10
50	広江彰	「戦時労働統制の形成過程に関するノート―「労務動員計画」をめぐって」	『札幌学院商経論集』6-1	1989.12
51	朴慶植	「強制連行の意味を考える」	『脈動』9	1991.5
52	李又鳳	『傷跡は消えない―朝鮮侵略と強制連行史』	(私家版)	1991.5
53	「証言する風景」 刊行委員会 編	『証言する風景―名古屋発/朝鮮人・中国人強制連行の記録 写真集』	風媒社	1991.8
54	朴慶植	「朝鮮人強制連行についての調査研究」	『アジア問題研究所報』6	1991.8
55	一條三子	「埼玉県比企地域の地下軍事施設と朝鮮人労働者」	『在日朝鮮人史研究』21	1991.9
56	石田米子	「岡山県における在日朝鮮人史の概要および研究の状況」 (『在日朝鮮人研究の現段階』)	在日朝鮮人運動史研究会関西支部	1991
57		『長野県松本市里山辺における朝鮮人・中国人強制労働の記録―平和のためのガイドブック』	里山辺朝鮮人・中国人強制労働調査団	1992.7
58	堀江節子ほか	『黒部・底方の声―黒三ダムと朝鮮人』	桂書房	1992.12
59		『ワシらは鉱山で生きてきた―丹波マンガン記念館の精神史』	丹波マンガン記念館	1992.12
60	澤田純三	「太平洋戦争下の雄神地下工場について」	『近代史研究』15	1992
61	加端忠和	「白鳥地下軍需工場建設(未完)の強制連行朝鮮人と直下村の人々」	『えぬのくに』37	1992
62		『石川県における朝鮮人戦時労働動員』1～3	小松現代史の会	1992～ 1993
63	桑原真人	『戦前期北海道の史的研究』	北海道大学図書刊行会	1993.2
64	杉山四郎	『語り継ぐ民衆史―歌志内・赤平・芦別』	北海道出版企画センター	1993.5
65	朴慶植	「朝鮮人強制連行」(梁泰昊編『朝鮮人強制連行論文集成』所収)	明石書店	1993.6
66	山田昭次	「朝鮮人強制連行研究史覚書」(同上)	明石書店	1993.6
67	「浮島丸事件 下北からの証言」 発刊をすすめる 会 編	『アイゴの海―浮島丸事件 下北からの証言』	下北の地域文化研究所	1993.12
68	田中直樹	「第二次世界大戦期における朝鮮人「移入」労働者について」	『日本大学生産工学部研究報告B』26-1	1993
69	飛田雄一・金英達・外村大	「共同研究 朝鮮人戦時動員に関する基礎研究」	『青丘学術論集』4	1994.2
70	金贊汀	『浮島丸釜山港へ向かわず』	かもがわ出版	1994.8

71	守屋敬彦	「第二次大戦下における朝鮮人強制連行の統計的研究」	『道都大学教養部紀要』13	1994
72	江東・在日朝鮮人の歴史を記録する会編	『東京のコリアン・タウン—枝川物語』	樹花社	1995.3
73		『岐阜県強制連行ガイドブック』	強制連行展ぎふ1996 実行委員会	1996
74	小松裕	「近代」の“縮図” 球磨郡深田銅山の歴史—鉱毒問題から朝鮮人労働まで」	『文学部論叢』57	1997.3
75	西成田豊	『在日朝鮮人の「世界」と「帝国」国家』	東京大学出版会	1997.5
76		『山陰強制連行ハンドブック』	全国交流会山陰実行委員会	1997
77	高野真幸 編	『朝鮮人強制連行・強制労働ガイドブック—資料集』奈良編 1	みずのわ出版	1998.9
78		『八幡製鉄と強制連行』	八幡製鉄の元微用工問題を追及する会	1998
79		『「消し去られた歴史」をたどる』	群馬県朝鮮人韓国人強制連行犠牲者追悼碑を建てる会	1999
80		『九州の強制連行』	全国交流集会九州実行委員会	1999
81	長澤秀	「貝島炭鉱と朝鮮人強制連行」	『青丘学術論集』14	1999
82	広瀬貞三	「佐渡鉱山と朝鮮人労働者」	『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』3	2000.3
83		「漂う恨 検証浮島丸事件 56年目の夏」 (上) (中) (下)	『金曜日』8-31 -32 -33	2000.8.25 . 9.1 . 9.8
84	前田憲二	「朝鮮人強制連行・強制労働の恨—長編記録映画「百万人の身世打鈴」が完成して」	『部落解放』481	2001.2
85	中川喜与志、宋斗会	「浮島丸事件訴訟 それでも日本は黙殺するのか?—宋斗会さんに聞く」	『金曜日』9-13	2001.4.6
86	伊藤孝司	「知られざる強制連行—朝鮮北部から「中島飛行機」と農耕勤務隊へ」	『統一評論』431	2001.7
87	北従軍慰安婦太平洋戦争被害者補償対策委員会	「朝鮮人強制連行犯罪に関する真相報告書」	『統一評論』431	2001.7
88	芝竹夫	『歴史を刻む在日コリアンたち』	向陽舎	2001.8
89	金慶海	「三菱財閥と強制連行」	『在日朝鮮人史研究』31	2001.10
90	伊藤孝司	「明らかになった太平丸事件—強制連行された多くの朝鮮人が犠牲に」	『統一評論』441	2002.6
91	洪祥進	「朝鮮人強制連行・強制労働の全容解明に向けて」	『統一評論』442	2002.7

92	石田貞	「戦争末期の「教育隊」と強制連行」	『統一評論』443	2002.8
93	原田章弘	「戦争末期の地下工場建設と強制連行」	『統一評論』443	2002.8
94	刊行委員会編	『鹿児島、韓国封印された歴史を解く』	南方新社	2002.9
95	古庄正	「朝鮮人強制連行と広告募集」	『在日朝鮮人史研究』32	2002.10
96	竹内康人	「筑豊の炭鉱史跡と朝鮮人追悼碑」	『在日朝鮮人史研究』32	2002.10
97	伊藤孝司	「飢餓と強制労働—朝鮮北部から「播磨造船所」へ」	『統一評論』446	2002.12
98	池上洋通	「有事法制の議論のなかで(3)—朝鮮人はどんな政策で強制連行されたのか」	『月刊ゆたかなくらし』250	2002.12
99	日本弁護士連合会調査団	「朝鮮人強制連行・強制労働で日弁連が報告書 調査報告書 朝鮮人強制連行・強制労働被害を人権救済申立事件調査報告書」	『統一評論』447	2003.1
100	日本弁護士連合会調査団	「朝鮮人強制連行・強制労働被害者人権救済申立事件調査報告書」(2)	『統一評論』448	2003.2
101	金英達著、金慶海編	『朝鮮人強制連行の研究』(金英達著作集2)	明石書店	2003.2
102	伊藤孝司	「日朝関係を考える—朝鮮人強制連行と国交正常化」	『社会主義』483	2003.2
103	野添憲治	「語られなかった朝鮮人差別—秋田県の朝鮮人強制連行」	『別冊東北学』5	2003.2
104	洪祥進	「朝鮮人強制連行の概念—日弁連勧告から」	『戦争責任研究』39	2003.3
105	鳴海治一郎	「闇に葬られようとした朝鮮人強制連行者の遺骨」	『進歩と改革』615	2003.3
106	高野眞幸 編	『幻の天理「御座所」と柳本飛行場—朝鮮人強制連行・強制労働ガイドブック』	奈良県での朝鮮人強制連行等に関わる資料を発掘する会	2003.4
107		「日本の強制連行の犯罪を暴く—南北共同資料展示会・〔学術〕討論会開催」	『統一評論』450	2003.4
108	崔龍道	「韓国ではじめて強制連行関連者名簿、公開される—多くの人々がつめかけ、名前を確認」	『統一評論』451	2003.5
109	西口俊	「軍国主義日本の大罪—朝鮮人強制連行」	『新世紀』204	2003.5
110	竹内康人	「三菱高島炭鉱への朝鮮人強制連行」	『在日朝鮮人史研究』33	2003.10
111	小松豊	『おれは、にんげんだ—タコ部屋労働・朝鮮人労働、そして今』	草の根出版会	2003.11
112	門永秀次	「播磨造船所に徴用されたハラボジたち」(兵庫朝鮮半島研究会編『近代の朝鮮と兵庫』所収)	明石書店	2003.11
113	梁相鎮	「朝鮮北半部からの強制連行」(兵庫朝鮮半島研究会編『近代の朝鮮と兵庫』所収)	明石書店	2003.11
114	洪祥進	「朝鮮人強制連行の概念について—日本の研究と日弁連の勧告」	『統一評論』457	2003.11
115	洪善玉	「基調報告」(「浮島丸」事件真相究明平壤討論会)	『統一評論』457	2003.11
116	古庄正	「朝鮮人戦時動員の構造—強制連行に関する一考察」	『日本植民地研究』	2003

117	金光烈	『足で見た筑豊—朝鮮人炭鉱労働の記録』(世界人権問題叢書 49)	明石書店	2004.2
118	蔡鴻哲、殿平 善彦	「悲しみへの共感—本願寺札幌別院強制連行犠牲者遺骨問題」(日本の過去清算を求める国際連帯協議会第二回会議ソウル大会)	『統一評論』465	2004.7
119	金順愛、金貴東	「中島飛行機半田製作所における朝鮮人強制連行と強制労働、空襲被害の実態」(日本の過去清算を求める国際連帯協議会第二回会議ソウル大会)	『統一評論』465	2004.7
120	空野佳弘	「朝鮮人強制連行の法的考察—日本弁護士連合会の勧告から」(日本の過去清算を求める国際連帯協議会第二回会議ソウル大会)	『統一評論』465	2004.7
121	田中寛治編	『朝鮮人強制連行・強制労働ガイドブック 奈良編』改訂版	奈良県での朝鮮人強制連行等に関わる資料を発掘する会	2004.8
122	竹内康人	「三菱財閥による強制連行、戦時労働奴隷制について」	『統一評論』467	2004.9
123	張完翼、姜恵楨訳	「『日帝強制占領下における強制動員被害真相究明特別法』の意義」	『戦争責任研究』45	2004.9
124	外村大	「朝鮮人強制連行—その概念と史料から見た実態をめぐって」	『戦争責任研究』45	2004.9
125	稲葉耕一	「浮島丸事件と日朝国交正常化」	『科学的社会主義』77	2004.9
126	江東・在日朝鮮人の歴史を記録する会編	『東京のコリアン・タウン—枝川物語』増補新版	樹花社	2004.10
127	谷川透	「朝鮮人強制労働—戦後六〇年に向けて」	『戦争責任研究』46	2004.12
128	北強制連行被害者補償対策委員会	「朝鮮人犠牲者遺骨名簿に関する調査」	『統一評論』472	2005.2
129	鄭惠瓊	「強制連行犠牲者遺骨問題の本質と課題」	『統一評論』472	2005.2
130	鄭惠瓊、李善伊訳	「日帝末期強制連行犠牲者遺骨問題の本質と課題」	『戦争責任研究』47	2005.3
131	青柳敦子	『朝鮮人徴兵・徴用に対する日本の戦後責任—戦後日本の二重基準』	風媒社	2005.5
132	蔡鴻哲	「強制連行・強制労働犠牲者を考える第三回北海道シンポジウム—光復六〇年・忘れざる記憶」	『統一評論』475	2005.5
133	朝鮮日本軍「慰安婦」および強制連行被害者補償対策委員会	「朝鮮人強制連行犠牲者遺骨問題 祐天寺にある朝鮮人強制連行犠牲者名簿・遺骨問題に関する調査報告書」	『統一評論』477	2005.7
134	西村美智子	「実践・小学校六年 アニメ『キムの十字架』から強制労働の学びへ—学会を通して考えた日韓の過去と未来」	『歴史地理教育』687	2005.7
135	山田昭次、古庄正、樋口雄一	『朝鮮人戦時労働動員』	岩波書店	2005.8

136	山田昭二	「戦時動員（強制連行）された朝鮮人とその遺族の戦後」	『戦争責任研究』49	2005.9
137	蔡鴻哲	「朝鮮人強制連行犠牲者遺骨問題—室蘭光昭寺の遺骨返還問題」	『統一評論』480	2005.10
138	伊藤孝司	「北朝鮮現地ルポ 朝鮮人労働者—知られざる「強制連行」を追う」	『現代』39-10	2005.10
139	西村美智子	「〈教育実践〉日韓の歴史と未来への道—「冬のソナタ」から強制労働の学びへ」	『在日朝鮮人史研究』35	2005.10
140	野添憲治編著	『秋田県における朝鮮人強制連行—証言と調査の記録』	社会評論社	2005.11
141	洪祥進	「日本政府による強制連行犠牲者遺骨調査の問題点と今後」（日本の過去の清算を求める国際連帯協議会第三回会議）	『統一評論』481	2005.11
142	福留範昭	「強制動員真相究明をめぐる日韓の動き」	『インパクション』149	2005
143	つむらあつこ	「韓国・「真実と和解 未来」を求めて国際シンポー日帝時代の強制動員被害への真相糾明法」（検証・ハンセン病隔離の歴史 第2部(第15回)）	『ヒューマンライツ』214	2006.1
144	黄英治	「いまに生きる朝鮮人強制連行の物語」 (上) (下)	『月刊労働組合』 489 490	2006.1 2006.2
145	強制連行強制労働犠牲者を考える北海道フォーラム	「朝鮮人強制連行・強制労働真相調査—北海道猿払浅茅旧共同墓地における遺骨試掘報告書」	『統一評論』485	2006.3
146	川瀬俊治	「「紀元二千六百年祝典」と朝鮮人建國奉仕隊」	『戦争責任研究』51	2006.3
147	守屋敬彦	「朝鮮人強制連行方法とその強制性」	『戦争責任研究』51	2006.3
148	竹内康人	「朝鮮人強制労働全国一覧表を作成して」	『戦争責任研究』51	2006.3
149	横川輝雄	「麻生系炭鉱の朝鮮人労働者」	『戦争責任研究』51	2006.3
150	殿平善彦	「土の中からの告発—北海道における強制連行犠牲者と遺骨問題」	『戦争責任研究』51	2006.3
151	樋口雄一	「朝鮮人徴用動員と動員体制—1944年を中心に」	『戦争責任研究』51	2006.3
152	KT生	「韓国からの告発レポート—知られざる麻生太郎外相の家系」(1) (2)	『金曜日』14-9 14-11	2006.3.3 3.17
153	鄭泰春	「徴用者アリラン「月よ、高く」「彼らが来た」」	『統一評論』486	2006.4
154	蔡鴻哲	「第四回強制連行・強制労働犠牲者を考える北海道フォーラム 歴史を踏まえて東アジアに真の和解—遺骨問題の更なる進展に向けて」	『統一評論』487	2006.5
155		『海南島で日本は何をしたか—戦時朝鮮人強制労働・虐殺日本軍『慰安婦』：特別展示』	高麗博物館	2006.6
156	堀内忠	「訪ねてみませんか？ 朝鮮人強制連行関係の碑文を比較しながら」	『リベラシオン』122	2006.6
157	竹内康人	「北海道強制連行犠牲者の名簿の解説」	『統一評論』489	2006.7

158	洪祥進	「北海道強制連行犠牲者の名簿の分析—日本政府の調査の問題点と今後」	『統一評論』489	2006.7
159	洪祥進	「朝鮮人強制連行犠牲者名簿公開—福岡県強制連行犠牲者名簿の分析」	『統一評論』490	2006.8
160	成澤宗男	「戦後61年 強制連行の「記憶」と「現在」—遺骨問題で日本が問われる「人間の尊厳」」	『金曜日』14-31	2006.8.11 /18
161	青柳敦子	「浮島丸事件に関する第二復員局内部文書(1950)について—浮島丸事件の取り組みにおける断絶」	『Sai』55	2006 夏秋
162	川瀬俊治	「遺骨を早く遺家族のもとに—朝鮮人強制動員犠牲者の遺骨返還問題解決にむけて全国28ヵ所で集会」	『部落解放』572	2006.10
163	福留範昭	「朝鮮人強制動員の真相究明と和解に向けて—福岡県」	『月刊自治研』48	2006.10
164	同委員会 編	『松代大本営工事犠牲者と真相を尋ねて』(合冊・会報「いわかけ」、慰霊碑建立ニュース、研究調査報告：1991年12月～2006年10月)	松代大本営朝鮮人犠牲者追悼平和祈念碑維持管理委員会	2006.11
165	上杉聰	「過去の清算 朝鮮人強制連行被害者の遺骨返還問題—日韓・日朝による共同作業の経緯と展望」	『世界』759	2006.12
166	君塚仁彦	「朱鞠内・笹の墓標展示館—「タコ部屋」労働に斃れた朝鮮人の記憶」(東北アジア・歴史を逆なでする博物館6)	『前夜』第1期6	2006 冬
167	洪祥進	「「サイ」五五号に掲載された青柳敦子「特集 浮島丸事件の新史料」について」	『Sai』56	2006 冬 2007 春
168	福留範昭	「韓国の強制動員被害者の真相究明」	『部落解放』567	2006
169	守屋敬彦	「朝鮮人被強制連行死亡者の遺骨・遺族扶助料」	『戦争責任研究』55	2007.3
170	塚崎昌之	「1945年4月以降の日本への朝鮮人強制連行—朝鮮人「兵士」の果たした役割」	『戦争責任研究』55	2007.3
171	外村大	「アジア太平洋戦争末期朝鮮における勤労援護事業」	『戦争責任研究』55	2007.3
172	鄭惠瓊、福留範昭 訳	「日帝強占下強制動員被害真相究明委員会の調査を通してみた労務動員」	『戦争責任研究』55	2007.3
173	川瀬俊治	「強制連行とは何か—朝鮮人強制連行被害者の遺骨返還運動のなかで論議」	『部落解放』580	2007.4
174	金光烈	『風よ、伝えよ—筑豊朝鮮人鉱夫の記録』	三一書房	2007.7
175	内海愛子、上杉 聰、福留範昭	『遺骨の戦後—朝鮮人強制動員と日本』(岩波ブックレットNo.707)	岩波書店	2007.8
176	李修京、湯野優子	「宇部の長生炭鉱と戦時中の朝鮮人労働者」	『東京学芸大学紀要』59	2008.1
177	在日朝鮮留学生 同盟兵庫強制連 行真相調査究明 サークル	「朝鮮人強制連行に関する資料的研究—「殉職産業人名簿」整理事業をとおして」	『統一評論』508	2008.2
178	金仁徳	「日帝強占下強制動員被害真相糾明委員会の活動と課題」	『立命館国際地域研究』26	2008.2
179	李一満	「強制動員被害者たちの遺骨奉還に思う」	『統一評論』509	2008.3
180	朝鮮日本軍「慰安 婦」および朝鮮被	「神戸製鋼所における強制連行、強制労働犯罪真相報告書」	『統一評論』510	2008.4

	害者補償対策委員会			
181	山川修平	『人間の砦—元朝鮮女子勤労挺身隊・ある遺族との交流』	三一書房	2008.5
182	福留範昭	「韓国の「強制動員犠牲者支援法」について」	『戦争責任研究』60	2008.6
183	谷勝三	「強制連行・強制労働犠牲者の遺骨返還—置き去りにされ、63年もかけられた葬儀を終えて」	『進歩と改革』679	2008.7
184	朝鮮人強制連行被害者遺族協会	「日本の東京に連行され、米軍の空襲によって犠牲になった朝鮮人強制連行被害者問題に関する調査報告書」	『統一評論』513	2008.7
185	品田茂	『爆沈・浮島丸—歴史の風化とたたかう』	高文研	2008.8
186	横田一	「麻生一族の過去と現在—首相の教育係が語る「強制連行否定論」」	『世界』786	2009.1
187	福留範昭	「非徴用者の遺骨の処遇も課題に—朝鮮人強制動員犠牲者の遺骨について」	『部落解放』611	2009.3
188	福留範昭	「韓国における過去清算の推進と抵抗—強制動員問題を中心に」	『長崎ウエスレヤン大学地域総合研究所研究紀要』7-1	2009.3
189	内岡貞雄	「朝鮮人強制連行の跡をたどる北九州・筑豊のフィールドワークから学ぶこと」（会員の活動）	『リベラシオン』133	2009.3
190	同会編	『芦別市が朝鮮人強制連行を認めるまで—記録集』	芦別市と朝鮮人強制連行について話し合う会	2009.4
191	李龍植	『丹波マンガン記念館の7300日—20万来館者ととともに』	解放出版社	2009.6
192	李龍植、川瀬俊治	「インタビュー 朝鮮人強制連行を現物で伝えつづけて—丹波マンガン記念館の20年」	『部落解放』615	2009.6
193	今泉裕美子	「南洋諸島への朝鮮人の戦時労働動員—南洋群島経済の戦時化からみる一側面」	『戦争責任研究』64	2009.6
194	李一満	「朝鮮人強制連行真相調査 八丈島と朝鮮人強制連行—生存者証言収集調査について」	『統一評論』524	2009.6
195	殿平善彦	「朝鮮人強制連行真相調査 北海道における強制連行犠牲者の遺骨奉還の取り組み」	『統一評論』524	2009.6
196	福留範昭	「韓国における過去の清算—強制動員問題を中心に」（川瀬俊治、文京洙編『ろうそくデモを越えて—韓国社会はどこに行くのか』（希望叢書；1）所収）	東方出版	2009.10
197	李一満	「講演 祐天寺と東京都慰霊堂と八丈島と—東京朝鮮人強制連行調査団、五年の歩み」	『統一評論』528	2009.10
198	朝鮮日本軍「慰安婦」強制連行被害者補償対策委員会	「三菱重工業神戸造船所の強制連行・労働犯罪調査報告書」	『統一評論』528	2009.10
199	大信田尚一郎	『岩手県内朝鮮人受難者追悼の碑—岩手の朝鮮人強制連行・基礎資料抄録』	『追悼乃碑』管理委員会	2009
200	小林久公	「「供託金」問題を中心に—強制動員真相究明の現状と課題」	『アジェンダ』28	2010.春

201	白井京	「韓国 対日抗争期強制動員被害調査関連法の制定」(日本関係情報)	『外国の立法』243-1	2010.3
202	朝鮮日本軍「慰安婦」および強制連行被害者問題対策委員会, 朝鮮人強制連行被害者遺族会	「遺骨問題に関するわれわれの立場」(東京大空襲六五周年朝鮮人犠牲者追悼国際シンポジウム)	『統一評論』534	2010.4
203	床井茂	「「在日朝鮮人歴史・人権週間」全国集会 日弁連・朝鮮人強制連行に対する勧告から」	『統一評論』535	2010.5
204	吉田邦彦	「北海道・浅茅野飛行場強制労働の韓国・朝鮮人遺骨問題—その民法学的課題」	『戦争責任研究』68	2010.6
205	竹内康人	「朝鮮人関係追悼碑の調査」	『戦争責任研究』68	2010.6
206	野添憲治	『遺骨は叫ぶ—朝鮮人強制労働の現場を歩く』	社会評論社	2010.8
207	阿藤満政	「松代大本営と朝鮮人強制連行」	『学習の友』684	2010.8
208	庵途由香	「朝鮮人強制動員における労務(国民)動員計画と地方行政」	『戦争責任研究』70	2010.12
209	内岡貞雄	「朝鮮人強制連行の跡をたどる—「下関」および「宇部の炭田(長生炭鉱)」のフィールドワーク」	『リベラシオン』140	2010.12
210	野添憲治	「秋田県に強制連行された朝鮮の人たち」	『科学的社会主義』156	2011.4
211	駒井秀子	「北海道の子どもと朝鮮人強制連行—(仮称)「子ども史年表」について」	『ヘカッチ』6	2011.5
212	齋藤勝明	「一五年戦争と「朝鮮人の強制連行」の教材化」	『歴史地理教育』776	2011.7
213	庵途由香 述	「朝鮮人強制連行問題を考える」(徐勝、前田朗 編『文明と野蛮を超えて—わたしたちの東アジア歴史・人権・平和宣言』所収)	かもがわ出版	2011.12
214	外村大	『朝鮮人強制連行』(岩波新書)	岩波書店	2012.3
215	佐川享平	「戦間期の筑豊における朝鮮人鉱夫の労働と生活—飯塚炭鉱を事例として」	『史観』166	2012.3
216	亘明志	「戦時朝鮮人強制動員と統治合理性」	『長崎ウエスレヤン大学地域総合研究所研究紀要』10-1	2012.3
217	雨宮剛 編著	『謎の農耕勤務隊—もう一つの強制連行：足元からの検証』	私家版	2012.5
218	谷上嶺	「北の大地に眠る遺骨—強制連行・強制労働犠牲者と遺骨問題」	『進歩と改革』726	2012.6
219	菊池勇次	「戦時微用工個人の賠償請求権に関する韓国大法院判決」(日本関係情報)	『外国の立法』252-1	2012.7
220	青柳敦子編	『浮島丸は釜山に向けて出港した—舞鶴入港の経緯について—浮島丸元通信兵・小野寺和一さんの体験を中心に』	宋斗会の会	2012.9
221	林炳澤	「「北海道開拓」と朝鮮人の強制連行・労働」(越田清和編『アイヌモシリと平和—(北海道)を平和学する!』所収)	法律文化社	2012.9

222	内海隆男	「太田川水系の水力発電所建設工事と朝鮮人」	『戦争責任研究』77	2012.9
223	長澤秀	「茨城県・関本炭砒朝鮮人鉱夫の解放前後の状況—会社文書を中心に」	『在日朝鮮人史研究』42	2012.10
224	佐川享平	「一九三〇年代の筑豊における炭鉱経営と朝鮮人の労働—麻生商店を事例に」	『民衆史研究』84	2013.1
225	菊池勇次	「韓国 対日抗争期強制動員委員会の存続期間延長」（日本関係情報）	『外国の立法』254-1	2013.1
226	金光烈	『「内鮮融和」美談の真実—戦時期筑豊・貝島炭鑛朝鮮人強制労働の実態』	緑蔭書房	2013.3
227	同委員会 編、北原道子 訳、	『シベリアに抑留された朝鮮人捕虜の問題に関する真相調査—中国東北部に強制動員された朝鮮人を中心に』	対日抗争期強制動員被害調査及び国外強制動員犠牲者等支援委員会	2013.3
228	古庄正	『足尾銅山・朝鮮人強制連行と戦後処理』	創史社	2013.6
229	守屋敬彦	「韓民族被強制連行者は賃金をもらっていないかった」	『戦争責任研究』80	2013.6
230	亀島山地下工場を語りつぐ会編	『ガイドブック 亀島山地下工場』	亀島山地下工場を語りつぐ会	2013.8
231	高敬一	「長崎のなかの朝鮮—強制連行と被爆」（小さな旅(第21回)）	『Sai』69	2013.Sum. Aut.
232	菊池勇次	「韓国 戦時微用工個人の賠償請求権に関する韓国高等法院判決」（日本関係情報）	『外国の立法』257-1	2013.10
233	殿平善彦	『遺骨—語りかける命の痕跡』	かもがわ出版	2013.11
234		「国際法を完全無視する「強制微用工」判決が韓国経済に最大の打撃」	『週刊新潮』58-45	2013.11.28
235	高實康稔	「植民地支配・強制連行と朝鮮人被爆者」（木村朗、前田朗 編著『21世紀のグローバル・ファシズム—侵略戦争と暗黒社会を許さないために』所収）	耕文社	2013.12
236	竹内康人	「朴慶植『朝鮮人強制連行の記録』」（特集 戦後歴史学の著作を読む(3)）	『日本史研究』616	2013.12
237	殿平善彦	「強制連行犠牲者の遺骨を遺族に届ける—遺骨奉還の経験と2014年の課題」	『統一評論』582	2014.5
238	高敬一	「足尾銅山に強制連行された朝鮮人」（小さな旅(第23回)）	『Sai』71	2014.Sum. Aut.
239	篠田悠三	「復命書が示す「拉致同様」の動員—百田尚樹さん！朝鮮人強制連行は戦時の徴用とは違いますよ」	『金曜日』22-43	2014.10.31
240	李相旭	「外村大著『朝鮮人強制連行』について」	『大原社会問題研究所雑誌』676	2015.2
241	李興燮著、室田卓雄 編	『続アポジがこえた海—在日朝鮮人一世の戦後』	解放出版社	2015.3
242	大和裕美子	『長生炭鉱水没事故をめぐる記憶実践—日韓市民の試みから』（比較社会文化叢書；vol. 34）	花書院	2015.3
243	佐川享平	「1920年代の炭鉱業における技術革新と労働力構成—三菱炭業筑豊礦業所における朝鮮人鉱夫の使用拡大をめぐる」	『大原社会問題研究所雑誌』677	2015.3

244	菊池勇次	「韓国 「微用関連施設」の世界遺産登録推進を糾弾する決議の採択」（日本関係情報）	『外国の立法』264-1	2015.7
245	高見恒憲	「あぶり出したい“帝国の虚構”—三菱金属細倉(ほそくら)鉱山の戦時強制労働の実態」	『福祉のひろば』185	2015.8
246	黒田孝彦	「戦時体制下起こった 名雨線工事・雨竜ダム工事の強制労働を「朱鞠内・笹の墓標展示館」の資料より視る」	『福祉のひろば』185	2015.8
247	山本明代	「戦時下の朝鮮人の強制連行」（平田雅己、菊地夏野 編『ナゴヤ・ピース・ストーリーズ=Nagoya Peace Stories :ほんとうの平和を地域から』所収）	風媒社	2015.10
248	佐々木建	「朝鮮人「強制連行」問題を学び直す」（北島義信編『リーダー「遊」』vol.9（戦後70年と宗教）所収）	文理閣	2015.11
249		「朝鮮人強制連行と遺骨返還—植民地時代の歴史に向き合う 孫昇賢さん」（『金曜日』で逢いましょう）	『金曜日』23-43	2015.11.13
250	愼蒼宇	「特集にあたって」（特集 朝鮮人強制連行研究の成果と課題—「戦後70年」の現在から考える(1)）	『大原社会問題研究所雑誌』686	2015.12
251	樋口雄一	「朝鮮人強制動員研究の現状と課題」	『大原社会問題研究所雑誌』686	2015.12
252	竹内康人	「朝鮮人軍人軍属の強制動員数—37万人以上の動員と消された氏名不明の13万人」	『大原社会問題研究所雑誌』686	2015.12
253	韓恵仁、南相九	「韓国における「朝鮮人強制動員」問題の現状と課題」	『大原社会問題研究所雑誌』686	2015.12
254	竹内康人	「明治産業革命遺産と強制労働」	『戦争責任研究』85	2015.12
255	張完翼、野木香里 訳	「強制動員に関する韓国大法院判決の経緯と現状」	『戦争責任研究』85	2015.12
256	高實康稔	「長崎と朝鮮人強制連行—調査研究の成果と課題」（特集 朝鮮人強制連行研究の成果と課題—「戦後70年」の現在から考える(2)）	『大原社会問題研究所雑誌』687	2016.1
257	金優綺	「北海道における朝鮮人強制連行・強制労働と企業「慰安所」」	『大原社会問題研究所雑誌』687	2016.1
258	鄭祐宗	「朝鮮人強制連行研究における「労働力不足説」「労働力充足説」の検討—1939年~1942年の炭坑労働者としての配置を中心に」	『大原社会問題研究所雑誌』687	2016.1
259	殿平善彦	「死者と遺骨—朝鮮人強制労働犠牲者の遺骨発掘と返還活動から見えてきたもの」	『抗路』2	2016.5
260	雨宮剛	『もう一つの強制連行謎の農耕勤務隊—足元からの検証』	文芸社	2016.6
261	伊藤智永	『忘却された支配—日本のなかの植民地朝鮮』	岩波書店	2016.7
262	広瀬貞三	「戦前の三池炭鉱と朝鮮人労働者」	『福岡大学人文論叢』48-2	2016.9
263	朴順梨	「朝鮮人強制連行犠牲者追悼碑の存置を拒否—ネット右翼の抗議で腰砕け?!群馬県のホンネ：「記憶 反省そして友好」は永遠でしょ!」	『金曜日』24-34	2016.9.9
264	小野寺真人	「70年ぶりの里帰り—韓国強制労働被害者遺骨奉還の旅」	『新しい歴史学のために』289	2016.10

265	朴順梨	「群馬の森・強制連行朝鮮人追悼碑「撤去」を求める人たち」	『社会民主』738	2016.11
266	崔善愛	「「朝鮮人強制連行」に一貫してこだわる一抗い ARAGAI 記録作家 林えいだい（闘う映画；近日公開作品）」	『金曜日』24-49	2016.12.23/ 2017.1.6
267	中田光信	「韓国大法院判決とダーバン宣言から見る朝鮮人強制連行・強制労働」（李洙任，重本直利 編著『共同研究安重根と東洋平和—東アジアの歴史をめぐる越境的対話』（龍谷大学社会科学研究所叢書；第116巻）所収）	明石書店	2017.3
268	韓恵仁	「「強制連行」と「強制動員」のあいだ」（権赫泰、車承棋 編、中野宣子 訳『〈戦後〉の誕生—戦後日本と「朝鮮」の境界』所収）	新泉社	2017.3
269	河かおる	「滋賀県における朝鮮人強制動員の記録(5)—関連文献資料の調査より」	『人間文化』42	2017.3
270	伊藤智永	「現代史を検証 朝鮮人強制連行「吉田証言」の知られざる深層 映画「抗い」と歴史の偽造への抵抗」	『サンデー毎日』 96-10	2017.3.12

b サハリン残留韓国・朝鮮人

No.	著者	「論文タイトル」 『書籍タイトル』	『雑誌名』巻号 発行所	発行 年月
1	畑中康雄	「朝鮮人労働者の闘い—第二次大戦下の樺太での経験から」	『社会評論』	1977.5
2		「戦後三十二年 いまなおサハリンで望郷に身を焼く—日本が強制連行した朝鮮人たち」	『週刊朝日』	1977.12.1 6
3	三田英彬	『棄てられた四万三千人—樺太朝鮮人の長く苦しい帰還の道』	三一書房	1981.4
4		『サハリンの朝鮮人の一時帰国を実現するために』	サハリンの朝鮮人— 帰国実現の会	1984.5
5	長澤秀	「戦時下南樺太の被強制連行朝鮮人炭鉱夫について」	『在日朝鮮人史研究』16	1986.10
6	北海道新聞社	『祖国へ！—サハリンに残された人たち』	北海道新聞社	1988.11
7	片山通夫	『追跡！あるサハリン残留朝鮮人の生涯』	凱風社	2010.8
8	今西一	「樺太・サハリンの朝鮮人」	『小樽商科大学人文研究』121	2011.3

c 軍艦島（端島）

No.	著者	「論文タイトル」 『書籍タイトル』	『雑誌名』巻号 発行所	発行 年月
1	綾井健 記録	『記憶の「軍艦島」』	リーブル出版	2006.9
2	林えいだい 写真・文	『筑豊・軍艦島—朝鮮人強制連行、その後 写真記録』	弦書房	2010.5
3	長崎在日朝鮮 人の人権を守る会 編	『軍艦島に耳を澄ませば—端島に強制連行された朝鮮人・中国人の記録』	社会評論社	2011.7

4	熊田洋子	「闇に棄て置かれた史実、軍艦島の朝鮮人強制労働」（李修京 編『海を越える一〇〇年の記憶—日韓朝の過去清算と争いのない明日のために』所収）	図書新聞	2011.11
5	楠田剛士	「朝鮮人被爆者を「語る」—韓水山『軍艦島』の場合」	『原爆文学研究』12	2013.12
6	高實康稔	「『軍艦島』が世界遺産でいいのか—忘れられた朝鮮人強制連行の爪痕」	『金曜日』23-20	2015.5.29
7	長崎在日朝鮮人の人権を守る会	『軍艦島に耳を澄ませば—一端島に強制連行された朝鮮人・中国人の記録』増補改訂版	社会評論社	2016.8
8	竹内康人	「長崎県炭鉱への朝鮮人強制連行」	『戦争責任研究』89	2017.12

7 中国人「強制連行」

a 中国人「強制連行」一般

No.	著者	「論文タイトル」 『書籍タイトル』	『雑誌名』巻号 発行所	発行 年月
1	三浦幸夫	「中国人強制連行の「証言」から学ぶ 強制連行を創作劇に」	『生活教育』49-8	1997.8
2	西成田豊	「中国人強制連行に関する基本史料」	『UP』30-2	2001.2
3	田中宏	「中国人強制連行に関する「外務省報告書」について」	『龍谷大学経済学論集』40-5	2001.3
4	田中宏	「侵略と中国人強制連行—実態と補償問題（いいかげんにしろ 記憶の改ざん）」	『障害児と親と教師をむすぶ人権と教育』34	2001.5
5	松尾章一	「戦争責任と戦後補償—中国人強制連行「劉連仁事件」東京地裁判決に寄せて」	『戦争責任研究』33	2001.9
6	森田大三	「中国人強制連行・強制労働についての法律問題」	『戦争責任研究』33	2001.9
7	中国人強制労働事件・福岡訴訟原告弁護団 編	『過ちを認め、償い、共に歩むアジアの歴史を—中国人強制労働事件の真実』	リーガルブックス	2001.11
8	中国人強制労働事件・福岡訴訟原告弁護団 編	『過ちを認め、償い、共に歩むアジアの歴史を—中国人強制労働事件の真実』改訂増補版	リーガルブックス	2002.2
9	中西昭雄、川上奈緒子、番場友子	「中国人強制連行の実態—新発見資料・北海道庁「ペスト」防疫関係文書から（国内外の底辺の諸相）」	『寄せ場』15	2002.5
10	杉原達	『中国人強制連行』（岩波新書）	岩波書店	2002.5
11	西成田豊	『中国人強制連行』	東京大学出版会	2002.6
12	欧陽文彬著、三好一訳	『穴にかくれて14年—日本へ強制連行された中国人労働者劉連仁の脱出記録』	新読書社	2002.7
13	鈴木邦弘	「グラビア 忘却の墓標—中国人強制連行の痕跡」	『世界』705	2002.9

14	日本中国友好協会	『酒田港における中国人強制連行の記録—第2次中国平和の旅報告集 再刊』	第二次平和の旅訪中団	2002.11
15	杉原達、大阪大学	『戦時期日本の中国人強制連行に関する歴史的研究』	文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書	2003-2005
16	小山仁示	「強制連行された中国人と大阪大空襲」（現代史の眼21）	『ヒューマンライツ』182	2003.5
17	杉原達	「帝国史との向き合いかた—中国人強制連行研究を通じて」	『歴史学研究』776	2003.6
18	茨木のり子	『りゅうりえんれんの物語』改版（集団読書テキストB24）	全国学校図書館協議会	2003.6
19	鈴木賢士	「裁かれる中国人強制連行—生き証人たちは語る」	『ひろばユニオン』497	2003.7
20	鈴木賢士	「歴史 強制連行の傷痕—炭鉱などで労働を強いられた中国人は今」	『Aera』16-32	2003.7.28
21	鈴木賢士 写真・文	『中国人強制連行の生き証人たち』	高文研	2003.8
22	塚崎昌之	「戦時中の大日電線尼崎工場の中国人労働者について—『外務省報告書』にない中国人強制連行」	『歴史と神戸』42-4	2003.8
23	桐畑米蔵	「中国人強制連行問題を見つめる—河南省から大江山へ」	『季刊中国』73	2003.夏
24	中国人強制連行・強制労働事件福岡訴訟原告弁護団 編	『外務省『極秘』文書が語る中国人強制連行・強制労働事件の戦後史—国際犯罪隠滅工作の数々と平和友好を願う内外世論』	リーガルブックス	2003.12
25	川上奈緒子	「医療の側面から見た中国人強制連行—地崎組大タ張事業場を中心に」	『史論』56	2003
26	並木頼寿	「光陰似箭 強制連行—「歴史的事実」と「思想の自由」」	『中国研究月報』58-2	2004.2
27	渡辺晃 写真・著	『酒田港中国人強制連行痛恨の60年—渡辺晃写真集』	北の風出版	2004.5
28	須見建矢	「中国人強制連行の論点」（特集 中国人強制連行—全面解決へ向けて）	『中帰連』29	2004.夏
29	高橋幸喜	「酒田港中国人強制連行事件—上陸と帰国の地を訪ねて」	『季刊中国』77	2004.夏
30	中国人強制連行・強制労働事件福岡訴訟原告弁護団 編	『過ちを認め、償い、共に歩むアジアの歴史を—中国人強制労働事件の真実』その2	リーガルブックス	2004.11
31	猪八戒	「冷戦構造と中国人強制連行」（徐勝編『東アジアの冷戦と国家テロリズム—米日中心の地域秩序の廃絶をめざして』所収）	御茶の水書房	2004.12
32	石飛仁	「強制連行・法要の旅」（日中友好の原点3）	『Fukujin』9	2004
33	鈴木賢士	「中国人強制連行—裁かれる戦争犯罪」（未決の「戦後」を追う（中））	『ひろばユニオン』516	2005.2
34	中島佑介	「群馬県における中国人強制連行」（地域 日本から世界から124）	『歴史地理教育』689	2005.9
35	君塚仁彦	「老頭溝万人坑遺跡—忘却しえない間島（チェンタオ）侵略の傷跡」（東北アジア・「歴史を逆なでする」博物館（5））	『前夜』第1期5	2005.秋

36	吉田邦彦	「北海道の掘り起こし運動」と民法学研究一道内の強制連行跡地を訪ねて」	『法の科学』35	2005
37	上野志郎	「中国人強制連行・強制労働—室蘭におけるその実態」	『法の科学』35	2005
38	芳井研一	「満州国」期の労働力強制動員関東憲兵隊文書に見る動員の実態」	『環日本海研究年報』13	2006.2
39	杉原達	『戦時期日本の中国人強制連行に関する歴史的研究』	文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書	2006.3
40	守屋敬彦	「『華北労働問題概説』に見る中国人強制連行前史」	『戦争責任研究』52	2006.6
41	和久田薫	『大江山鉱山—中国人拉致・強制労働の真実』	ウインかもがわ	2006.8
42	William Joseph Underwood	“The reparations movement for Chinese forced labor in wartime Japan: seeking a place in the global trend toward repairing historical injustices”	博士論文(九州大学)	2007
43	富樫利一	『血価の証言—北海道・角田砦における中国人強制労働の実態』	彩流社	2008.4
44	こちまさこ	『一九四五年夏はりま—相生事件を追う』	北星社	2008.7
45	犀川治	「中国人強制連行全面解決への道」	『季刊中国』94	2008.秋
46	川上奈緒子	「中国人強制連行と一九四五年の「移入」状況—地崎組を一つの事例として」	『史論』61	2008
47	王紅艶	「中国人強制連行問題における日中間人の交流」	『立教大学ランゲージセンター紀要』21	2009.1
48	杉原達	「中国人強制連行に関与した土木建築企業に対する国家補償金供与について」	『大阪大学日本学報』28	2009.3
49	野添憲治	「中国人強制連行の現場へ—慰霊と取材の旅から」	『科学的社会主義』134	2009.6
50	上野志郎	『「事業場報告」が記録した中国人強制連行』	私家版	2009.8
51	桐畑米蔵	「歴史を鑑として／中国人強制連行に思う」	『季刊人権問題』19	2009.冬
52	高木喜孝、内田雅敏、森田太三 他	「座談会 中国人強制連行問題—戦後補償をどう実現するか」	『世界』800	2010.1
53	高橋幸喜	『東京港中国人強制連行の記録』	日本中国友好協会山形県連合会	2010.6
54	青木茂	「偽満州国」の中国人強制連行と万人坑」	『中帰連』56	2012.12
55	樋口浩造、杉浦茜	「中国人強制連行・地崎組 『華人労務者就労願末報告書』について」	『愛知県立大学日本文化学部論集』4	2012
56	芳井研一	「満州国」期の労働力強制動員」(芳井研一編『南満州鉄道沿線の社会変容』(新潟大学人文学部研究叢書；9)所収)	知泉書館	2013.3
57	野添憲治	「仁科鉱山・中国人強制連行の悲劇を伝え続ける—静岡県・「みんなの家」の人たち」	『科学的社会主義』180	2013.4
58	吉田邦彦	「中国人強制連行・労働問題の現在の諸課題—酒田・唐山訪問を機縁として」	『季刊中国』113	2013.夏
59	青木茂	『万人坑を訪ねる—満州国の万人坑と中国人強制連行』	緑風出版	2013.12
60	森越智子	『生きる—劉連仁の物語』	童心社	2015.7

61	王紅艶	『『満洲国』劳工の史的研究—華北地区からの入満劳工』	日本経済評論社	2015.8
62	徐雄彬、董光哲	「満鉄の中国人従業員に対する労務政策・労務管理に関する一考察—時期別にみた中国人従業員の労働・生活状況の分析を中心として」	『経営哲学』11-2	2014.8
63	松岡肇	「強制的な「拉致・連行」で中国人を強制労働」（中山武敏、松岡肇、有光健 他著『戦後70年・残される課題—未解決の戦後補償2』所収）	創史社	2015.8
64	藤村一郎	「ローカル・イニシアティブと「負の遺産」—三井三池炭鉱宮浦坑中国人殉難者慰霊碑建立に関する一考察」	『久留米大学法学』73	2015.11
65	青木茂	『華北の万人坑と中国人強制連行—日本の侵略加害の現場を訪ねる』	花伝社	2017.8

b 花岡事件

No.	著者	「論文タイトル」 『書籍タイトル』	『雑誌名』巻号 発行所	発行 年月
1	高橋実	「ひとつの事実—花岡鉱山の中国人労働者に関する一医師の報告」	『社会評論』3-7	1946.7
2	日中友好協会編	『花岡ものがたり』	日中友好協会文化部	1951
3	劉智渠述	『花岡事件—日本の俘虜となった—中国人の手記』	中国人俘虜犠牲者善後委員会	1951
4	松田解子	「花岡鉱山をたずねて」	『新しい世界』42	1951.1
5	魯栄新	「「花岡事件」—日本軍国主義者の大罪悪行為」（『中共対日重要言論集』第一集所収）	外務省アジア局中国課	1955
6	新見隆	「花岡事件和解の経緯と意義」	『戦争責任研究』31	2001.3
7	野添憲治	「花岡事件の「和解」に思うこと—残されたままの戦争責任・戦後補償責任問題」	『科学的社会主義』40	2001.8
8	古川純	「「花岡事件」戦後補償請求訴訟の和解の研究—「東北アジアの法と政治」共同研究の一環として」	『専修大学社会科学研究所月報』459	2001.9.20
9	内藤光博	「戦後補償裁判における花岡事件訴訟和解の意義〔含資料〕」	『専修大学社会科学研究所月報』459	2001.9.20
10	新美隆、有光健、 内海愛子	「花岡事件訴訟和解について」（戦後補償を考える(2)）	『国際労働運動』31-12	2001.12
11	張宏波	「花岡訴訟「和解」の問題点」	『戦争責任研究』34	2001.12
12	野添憲治	「花岡事件に見る東北人の原像—秋田の地域社会と中国人強制連行」	『別冊東北学』4	2002.7
13	王敏、田中洋一	「強制連行と花岡事件を語る」	『中帰連』22	2002.秋
14	野添憲治	『花岡事件の人たち—中国人強制連行の記録』（教養ワイドコレクション）	文元社	2004.2
15	野添憲治	「花岡事件六〇年と戦後補償裁判の今」	『科学的社会主義』91	2005.11
16	野添憲治	『強制連行』（シリーズ・花岡事件の人たち：中国人強制連行の記録；第1集）	社会評論社	2007.12
17	野添憲治	『蜂起前後』（シリーズ・花岡事件の人たち：中国人強制連行の記録；第2集）	社会評論社	2008.1

18	野添憲治	『花岡鉦山』(シリーズ・花岡事件の人たち：中国人強制連行の記録；第3集)	社会評論社	2008.2
19	野添憲治	『戦争責任』(シリーズ・花岡事件の人たち：中国人強制連行の記録；第4集)	社会評論社	2008.4
20	野添憲治	「自著を語る いまもつづける慰霊と取材の旅—『シリーズ・花岡事件の人たち/中国人強制連行の記録』」	『寄せ場』21	2008.6
21	林伯耀	「大事な他者を見失わないために—花岡和解を戦後補償の突破口に」	『世界』780	2008.7
22	吉田邦彦	「中国人強制連行和解の現状と課題—花岡和解の問題点を中心として」(1) (2) (3)・完	『書齋の窓』 588 589 590	2009.10 2009.11 2009.12
23	坪田典子	「被害と加害のリアリティ 過去への責任—花岡「和解」を事例として」	『理論と動態』3	2010
24	野添憲治	『花岡を忘れるな歌謡の生涯—中国人強制連行と日本の戦後責任』	社会評論社	2014.6

c 中帰連関係者

No.	著者	「論文タイトル」 『書籍タイトル』	『雑誌名』巻号 発行所	発行 年月
1	国友俊太郎・大野貞美・安達真太郎・大河内文雄・長田友吉・小島延年・石野善男・鈴木清・小林健三	「戦犯の座談会 こうして戦犯になつた」	『真相』101	1956.9
2	神吉晴夫編	『三光—日本人の中国における戦争犯罪の告白』(カッパ・ブックス)	光文社	1957
3	中国帰還者連絡会・新読者社編	『侵略—中国における日本戦犯の告白』	新読者社出版部	1958
4	中国帰還者連絡会・新読者社編	『侵略—中国における日本戦犯の告白』新版	新読者社出版部	1967
5	山岡繁	「私の体験 侵略戦争を告発する」	『新評』18-9	1971.9
6	菊池義邦	「悪夢は林の如く(我々はなぜ自らを告発するのか—中国関係元戦犯の手記)」	『世界』311	1971.10
7	大木仲治・池沢正人・新井宗一郎・榎本正代・塚越正男	「焼き打ち・強奪・強姦のあげく強制連行」	『潮』153	1972.5
8	日本中国友好協会企画	VHS ビデオ『証言中国人強制連行』	日本電波ニュース社	1995.4
9	日本中国友好協会編著	『証言中国人強制連行—ビデオ「証言中国人強制連行」ガイドブック』	日本中国友好協会	1995.7
10	篠塚良雄・鈴木良雄・富永正三・矢崎新二	「座談会(前編)元・日本兵が語る—日本軍は中国で何をしたのか」	『ひろばユニオン』 438	1998.8

	湯浅謙	「座談会（後編）元・日本兵の証言—日本軍は中国で何ををしたのか」	439	1998.9
11	鈴木賢士	「裁かれる中国人強制連行—生き証人たちは語る」	『ひろばユニオン』 497	2003.7
12	鈴木賢士 写真・文	『中国人強制連行の生き証人たち』	高文研	2003.8
13	大木仲治	「証言 劳工狩り—強制労働のため農民拉致」	『中帰連』29	2004 夏
14	鈴木賢士	「中国人強制連行の生き証人 肖像と証言」	『中帰連』29	2004 夏
15	小山一郎	「証言 強制連行作戦と日の丸」	『中帰連』32	2005.春
16	鈴木賢士	「グラビア 中国人強制連行の生き証人」	『前衛』792	2005.7

8 戦後補償・戦後補償裁判

No.	著者	「論文タイトル」 『書籍タイトル』	『雑誌名』巻号 発行所	発行 年月
1	戦後補償問題研究会編	『在日韓国・朝鮮人の戦後補償』	明石書店	1991.10
2	国際フォーラム実行委員会編	『戦後補償を考える』（アジアの声・第6集）	東方出版	1992.7
3	古庄正	『強制連行の企業責任』	創史社	1993.12
4	高木健一	『戦後補償の論理—被害者の声をどう聞くか』	れんが書房新社	1994.8
5	内田雅敏	『「戦後補償」を考える』（講談社現代新書）	講談社	1994.8
6	大沼保昭	「戦後補償と国家の品格」	『諸君！』26-11	1994.11
7	北川恭章	「戦争責任、戦後補償を凝縮した「ウトロ」問題」	『Sai』24	1997.9
8	朝日新聞戦後補償問題取材班	『戦後補償とは何か』	朝日新聞社	1999.9
9	松本克美	「日本の戦後補償訴訟の現状と課題」	『立命館国際地域研究』17	2001.1
10	高木喜孝	「中国戦後補償訴訟における国際法の争点—個人請求の原則、甦るハーグ条約の精神」	『中国研究月報』55-1	2001.1
11	今村嗣夫	「〈戦後補償〉裁判から立法運動へ—謝罪のしるしとしての象徴的補償」	『国際労働運動』31-4	2001.4
12	田中宏	「侵略と中国人強制連行—実態と補償問題（いいかげんにしろ 記憶の改ざん）」	『障害児と親と教師をむすぶ人権と教育』 34	2001.5
13	野添憲治	「花岡事件の「和解」に思うこと—残されたままの戦争責任・戦後補償責任問題」	『科学的社会主義』40	2001.8
14	阿部浩己	「戦後補償裁判の地平」（法律時評）	『法律時報』73-9	2001.8
15	松尾章一	「戦争責任と戦後補償—中国人強制連行「劉連仁事件」東京地裁判決に寄せて」	『戦争責任研究』33	2001.9
16	ヘルベルト キュッパー、戸塚悦朗・権鐘聲 共訳	「ドイツの戦時奴隷労働に対する補償」	『戦争責任研究』33	2001.9

17	古川純	「「花岡事件」戦後補償請求訴訟の和解の研究—「東北アジアの法と政治」共同研究の一環として」	『専修大学社会科学研究所月報』459	2001.9.20
18	内藤光博	「戦後補償裁判における花岡事件訴訟和解の意義〔含 資料〕」	『専修大学社会科学研究所月報』459	2001.9.20
19	高橋融	「劉連仁判決の成果と影響」	『法と民主主義』362	2001.10
20	森田太三	「劉連仁判決の法律論についての評価」	『法と民主主義』362	2001.10
21	犀川治	「権利闘争の焦点 強制労働 劉連仁事件/国家賠償責任を肯定—東京地裁判決(平成 13. 7. 21)」	『季刊労働者の権利』242	2001.10
22	高木健一	『今なぜ戦後補償か』(講談社現代新書)	講談社	2001.11
23	有光健、内海愛子	「二十一世紀への宿題・日本の戦後処理(戦後補償を考える-1-)」	『国際労働運動』31-11	2001.11
24	新美隆、有光健、内海愛子	「花岡事件訴訟和解について」(戦後補償を考える(2))	『国際労働運動』31-12	2001.12
25	張宏波	「花岡訴訟「和解」の問題点」	『戦争責任研究』34	2001.12
26	山手治之	「日本の戦後処理条約における賠償・請求権放棄条項(1)—戦後補償問題との関連において」	『京都学園法学』35	2001.12
27	吉田邦彦	「在日外国人問題と時効法学・戦後補償(1)—いわゆる「強制連行・労働」問題の民法的考察」	『ジュリスト』1214	2001.12.15
28	「Sai」編集委員会編	「浮島丸事件の全貌を読み解くための Q&A」(特集 浮島丸事件を通して戦後補償問題を考える)	『Sai』41	2001.冬
29	小沢隆司	「戦後補償問題と民主主義法学」	『法の科学』31	2001
30	岡田正則	「戦後補償請求訴訟と国家責任—国家無答責法理と立法不作為を中心に」	『法の科学』31	2001
31	五十嵐正博	「日本における「戦後補償裁判」と国際法」	『法の科学』31	2001
32	遠藤正敬	「戦争犠牲者援護における内外人不平等—「国籍」が阻む旧植民地出身者への戦後補償」	『早稲田政治公報研究』67	2001
33	山手治之	「第二次大戦時の強制労働に対する米国における対日企業訴訟について」 (続編)(1) (続編)(2) (続編)(3) (続編)(4)	『京都学園法学』33/34 36/37 38 39/40 41	2001.3 2001 2002 2002 2003
34	吉田邦彦	「在日外国人問題と時効法学・戦後補償—いわゆる「強制連行・労働」問題の民法的考察」(1) (2) (3) (4) (5) (6・完)	『ジュリスト』1214 1215 1216 1217 1219 1220	2001.12.15 2002.1.1/15 2.1 2.15 3.15 4.1
35	内海愛子	『戦後補償から考える日本とアジア』(日本史リブレット68)	山川出版社	2002.1
36	高佐智美	「最新判例演習室 憲法 強制連行に対する国家賠償請求と除斥期間(東京地判平成 13. 7. 12)」	『法学セミナー』47-2	2002.2
37	佐藤健生	「戦後補償—ドイツの強制労働補償基金の現状」	『社会民主』563	2002.4

38	川上詩朗	「戦後補償問題の全面解決に向けて」(裁判・レポート)	『法と民主主義』367	2002.4
39	古庄正	「戦後補償 未払金供託の問題点—日鉄強制連行事件より」	『社会民主』566	2002.7
40	持永伯子	「中国人強制連行・劉連仁訴訟とは？」	『平和と民主主義』652	2002.8
41	野添憲治	「中国人強制連行訴訟—福岡地裁判決に思うこと」	『科学的社会主義』52	2002.8
42	小野寺利孝	「新段階を迎えた「中国人戦後補償裁判闘争」—今、あらためて戦後補償裁判闘争の意義と役割を考える」	『季刊中国』69	2002.夏
43	「Sai」編集委員会編	「姜富中戦後補償裁判の闘い」(20世紀の総括(2))	『Sai』43	2002.夏
44	奥田安弘、山口二郎 編	『グローバル化する戦後補償裁判』	信山社	2002.9
45	松岡肇	「中国人強制連行・強制労働事件—福岡訴訟判決」	『戦争責任研究』37	2002.9
46	有光健	「戦後責任を果たすために」(特集 戦後補償裁判の課題と展望)	『中帰連』22	2002.秋
47	王敏、田中洋一	「強制連行と花岡事件を語る」(同上)	『中帰連』22	2002.秋
48	穂積剛	「国家無答責とは何か」(前編)(同上)	『中帰連』22	2002.秋
49	松岡肇	「戦後補償 中国人強制連行・強制労働事件福岡訴訟—判決の意義と展望」	『社会民主』569	2002.10
50	田口治美	「判例の紹介 中国人強制連行国家賠償請求訴訟(劉連仁事件)における民法724条後段の適用の有無について(東京地裁平成13.7.12判決)」	『みんけん』546	2002.10
51	竹内二郎	「不二越強制連行の実態」	『技術と人間』31-8	2002.10
52	河原田有一	「米国における対日強制労働訴訟に関する連邦裁判所の事物管轄権」	『国際商事法務』30-6	2002
53	松本克美	「戦後補償の日独比較—法律学の視点から」(フォーラム1 戦後補償の日独比較)	『ドイツ研究』33/34	2002
54	矢野久	「ドイツの戦後責任と戦後補償—強制労働基金の歴史的意義」(フォーラム1 戦後補償の日独比較)	『ドイツ研究』33/34	2002
55	松本克美	「戦後補償訴訟・和解・立法提案の近時の動向」	『法の科学』32	2002
56	松本克美	「戦後補償訴訟の新展開—安全配慮義務及び時効・除斥期間問題を中心に」	『立命館法学』283	2002
57	矢野久	「ドイツ戦後補償と強制労働補償基金の意義」	『三田学会雑誌』95-4	2003.1
58	小林武	「戦後補償の国家責任」	『アカデミア』人文・社会科学編76	2003.1
59	西埜章	「判例研究 立法不作為の違法性—戦後補償を中心として」	『法政理論』35-3	2003.2
60	高木喜孝	「戦後補償訴訟の転機—除斥期間及び「国家無答責」を適用せず」	『戦争責任研究』40	2003.6
61	小野寺利孝	「国際人としての真のアイデンティティー確立を—中国人戦後補償裁判で日本に問われていること」	『月刊保団連』790	2003.8

62	徳留絹枝	「元捕虜米兵強制労働訴訟が問いかけるもの—提訴四年の現実—日本企業は何をすべきか」	『論座』100	2003.9
63	永山茂樹	「判例評釈 中国人強制連行・労働事件について『国家無答責』の法理の成立が否定された事例—東京地方裁判所2003年3月26日判決(平成9年(7)第19625号損害賠償等請求、請求棄却)」	『東亜大学紀要』1	2003.11
64	九州公法判例研究会	「公法判例研究 戦時中の中国人強制連行に国家無答責の法理の適用が認められなかった事例—大江山訴訟—審判決(京都地方裁判所平成15.3.4判決)」	『法政研究』70-3	2003.12
65	前海満広	「中国人強制連行・強制労働事件 福岡裁判から一過ちを認め、償い、ともに歩むアジアの歴史を」	『進歩と改革』624	2003.12
66	山手治之	「日本の戦後処理条約における賠償・請求権放棄条項(2)—戦後補償問題との関連において」	『京都学園法学』43	2003
67	高木喜孝、南典男、松本克美 他	「座談会 戦後補償裁判の現在と未来を考える」	『法律時報』76-1	2004.1
68	芝池義一	「戦後補償訴訟と公権力無責任原則」	『法律時報』76-1	2004.1
69	人見剛	「戦後補償裁判中の不作為国家賠償訴訟における作為義務(結果回避義務)について」	『法律時報』76-1	2004.1
70	泉澤章	「条約による個人請求権の放棄について—サンフランシスコ平和条約と日中共同声明を題材に」(特集 戦後補償問題の現状と展望)	『法律時報』76-1	2004.1
71	松本克美	「時効・除斥期間論の現状と課題」	『法律時報』76-1	2004.1
72	水島朝穂、馬奈木 巖太郎	「戦争犠牲者に対する賠償立法の法理についての試論—憲法学の観点から」	『法律時報』76-1	2004.1
73	横山真紀	「戦後補償訴訟の現在—「敗戦後」憲法を越えて」	『議会政策研究会年報』6	2004.2
74	梶村晃	「いまさら昔し話とは言えませぬ 中国人・強制連行強制労働福岡裁判—償いが未来への信頼を築く、問われる企業責任と国家無答責」	『軍縮問題資料』281	2004.3
75	南典男	「戦後補償問題の解決に向けて—日中関係の未来のために、今こそ「全面解決」を」	『中帰連』28	2004.春
76	張文彬裁判を支援する会、中国人戦争被害者の要求を支える会新潟県支部、中国人強制連行強制労働事件新潟訴訟弁護団 編	『中国人強制連行・強制労働事件訴訟新潟地裁判決・特集—判決全文・弁護団の評価・訴訟と運動の経過など』	張文彬裁判を支援する会	2004.4
77	馬奈木巖太郎	「強制連行新潟訴訟判決が問いかけるもの」(世界の潮)	『世界』727	2004.6
78		「日本のうしお 世界のうしお 中国人強制連行裁判に逆転判決」(〔2004〕.5.24 福岡高裁判決)	『まなぶ』557	2004.7
79	何鳴	「未解決の個人の戦争被害と司法の救済—戦後補償裁判とその法律争点」	『文教大学国際学部紀要』15-1	2004.7

80	内藤光博	「国際学術シンポジウム報告 日本の戦後補償裁判と植民地支配—日本国憲法と植民地主義」〔含 ハングル訳〕	『専修法学論集』91	2004.7
81	内藤光博	“Japanese Colonial Rule and Postwar Compensation Trials—Japanese Constitution and Colonialism”	『専修法学論集』91	2004.7
82	吉田邦彦	「札幌別院遺骨問題と「戦後補償」論(上)—隣国関係修復のあり方を求めて」 (下)	『法律時報』76-8 76-9	2004.7 2004.8
83	中国人戦争被害者損害賠償訴訟弁護団	「補償基金設立の提言」(特集 中国人強制連行—全面解決へ向けて)	『中帰連』29	2004.夏
84	小野寺利孝	「全面解決へ法廷内外で取り組もう」(同上)	『中帰連』29	2004.夏
85	馬奈木厳太郎	「中国人犠牲者との出会いと補償立法」(同上)	『中帰連』29	2004.夏
86	森田大三	「中国人強制連行・強制労働裁判の最近の判決をめぐって」	『戦争責任研究』45	2004.9
87	大河内美紀	「中国人強制連行・強制労働訴訟判決—新潟地判2004.3.26」(特集1 判例からみる「憲法の力」)	『法学セミナー』49-9	2004.9
88	新見隆	「中国人強制連行・広島高裁判決が開く水路」(世界の潮)	『世界』730	2004.9
89	鈴木忠明	「未解決のままの戦争責任・戦後処理(戦後補償)」	『金曜日』12-39	2004.10.1
90	松本克美	「戦後補償訴訟と<時の壁>—正義は時を超えないのか」(法律時評)	『法律時報』76-11	2004.10
91	内藤光博	「立法不作為に基づく違憲訴訟に関する一考察—戦後補償裁判における国家賠償責任の可能性」	『専修法学論集』92	2004.11
92	森田大三	「「中国人強制連行・強制労働補償基金」の内容と実現に向けて」	『戦争責任研究』46	2004.12
93	谷川透	「朝鮮人強制労働—戦後六〇年に向けて」	『戦争責任研究』46	2004.12
94	宮本幸裕	「時の壁は超えられるのか—中国人強制連行事件(福岡高判平成16.5.24)」(民事判例研究(836))	『法律時報』76-13	2004.12
95	西埜章	「強制連行・強制労働訴訟と国家無答責の原則」	『法律論叢』72-2/3	2004.12
96	劉煥新	「中国人強制連行事件・劉連仁事件陳述書—日本政府の謝罪と償いを求めて」	『季刊中国』79	2004.冬
97	西埜章	「戦後補償における国家無答責原則克服の試み」	『国際人権』15	2004
98	深山薫子	『忘れない! 不二越女子勤労挺身隊—第二次不二越強制連行・強制労働訴訟実態把握のために—原告陳述書と著者の記憶から記録と合唱曲テープ紹介』	富士紫金草合唱団	2005.2
99	福留範昭、亘明志	「戦後補償問題における運動と記憶(1)—老岐芦辺町朝鮮人海難事故をめぐって」	『長崎ウエスレヤン大学地域総合研究所研究紀要』3-1	2005.3
100	太田修	「問い直される戦後補償」	『世界週報』86-18	2005.5.10 /17
101	青柳敦子	『朝鮮人徴兵・徴用に対する日本の戦後責任—戦後日本の二重基準』	風媒社	2005.5
102	野添憲治	「中国・朝鮮人強制連行の謝罪と責任」(特集:平和憲法と戦後補償)	『マスコミ市民』436	2005.5

103	高木喜孝	「歴史の清算 对中国戦後補償とは何だったのか— 「個人賠償請求訴訟」の勃興」	『世界』741	2005.7
104	中国人戦争被害賠償請求事件弁護団編	『砂上の障壁—中国人戦後補償裁判10年の軌跡』	日本評論社	2005.8
105	高木喜孝	「戦後補償裁判のいま」	『法学セミナー』50-8	2005.8
106	土屋公献、戸塚悦朗、有光健	「対談:戦後補償実現の可能性—裁判・立法・国際情勢を語る」	『法学セミナー』50-8	2005.8
107	荒井新一	「戦後補償と戦後責任」(中村政則、天川晃、尹健次、五十嵐武士 編『過去の清算』(『戦後日本—占領と戦後改革』第5巻所収)	岩波書店	2005.9
108	申恵、高木喜孝、永野貫太郎 編	『戦後補償と国際人道法—個人の請求権をめぐる』	明石書店	2005.10
109	在間秀和	「広島三菱重工元微用工在韓被爆者訴訟・広島高裁判決の意義」	『部落解放研究』166	2005.10
110	泉澤章	「中国人戦後補償裁判における新展開—個人請求権放棄論をめぐる」(ロー・ジャーナル)	『法学セミナー』50-10	2005.10
111	大谷猛夫	「中国人戦争被害者が日本政府に謝罪と賠償を求めています」(教育情報1057)	『教育』55-10	2005.10
112	野添憲治	「花岡事件六〇年と戦後補償裁判の今」	『科学的社会主義』91	2005.11
113	馬奈木徹太郎	「戦後補償裁判の現状と憲法学の課題」	『札幌学院法学』22-1	2005.11
114	裴重度	「在日の戦後補償問題—日韓国政府のはざままで」	『環』23	2005.秋
115	金昌祿	「韓国から見た「戦後補償」問題」	『環』23	2005.秋
116	中西康	「涉外判例研究(第527回)強制連行・労働についての戦後補償請求—西松建設事件—広島地判平成14.7.9—広島高判平成16.7.9」	『ジュリスト』1302	2005.12.1
117	田中貴文	「中国人強制連行事件北海道訴訟について」	『法の科学』35	2005
118	田村光彰	「真相の解明と強制労働補償基金創設前史」	『北陸法学』12-1/2	2005
119	古賀智久	「連邦政府の外交権限と専占法理—日本企業に対する強制労働訴訟」	『法政論叢』42-1	2005
120	中国人強制連行・強制労働事件福岡訴訟原告弁護団編	『最高裁(模擬)弁論私達は主張する—過ちを認め、償い、共に歩むアジアの歴史を』	リーガルブックス	2006.2
121	松塚晋輔	「戦争賠償及び補償について—強制労働事例を中心に」	『比較文化研究』37	2006.3
122	福留範昭、亘明志	「強制動員被害者の遺骨調査をめぐる」(戦後補償問題における運動と記憶(2))	『長崎ウエスレヤン大学地域総合研究所研究紀要』	2006.3
123	楊志輝	「戦争賠償問題から戦後補償問題へ」(劉傑、三谷博、楊大慶 編『国境を越える歴史認識—日中対話の試み』所収)	東京大学出版部	2006.5
124	五十嵐正博	「日本の「戦後補償裁判」と国際法」	『国際法外交雑誌』105-1	2006.5

125	中西康	「日本をめぐる戦後補償裁判における国際私法上の諸問題—処理枠組みの素描」	『国際法外交雑誌』105-1	2006.5
126	北村和生	「太平洋戦争中に中国から日本へ強制連行されて強制労働に従事させられ、逃走して約一三年間北海道の山野での逃走生活を余儀なくされた中国人の遺族から国に対する損害賠償請求が否定された事例(東京高判平成 17.6.23) (判例評論(第 568 号))」(最新判例批評(46))	『判例時報』1925	2006.6.1
127	前海満広	「中国人強制連行事件福岡訴訟第二陣福岡判決—最低最悪の判決、原告子々孫々まで闘う」	『進歩と改革』654	2006.6
128	何鳴	「国内法廷における国際法の解釈、理解と適用—日本の戦後補償裁判の場合」	『文教大学国際学部紀要』17-1	2006.7
129	采女博文	「戦後補償裁判と除斥期間概念」(河内宏、大久保憲章、采女博文、児玉寛、川角由和、田中教雄 編『市民法学の歴史的・思想的展開—原島重義先生傘寿』所収)	信山社	2006.8
130	浅田正彦	「日本における戦後補償裁判と国際法」	『ジュリスト』1321	2006.10.15
131	梓澤和幸	「韓国人・朝鮮人強制連行—日本鋼管訴訟」	『軍縮問題資料』313	2006.12
132	森田太三	「中国人強制連行・強制労働」	『軍縮問題資料』313	2006.12
133	守屋敬彦	「軍需省燃料局長通牒と中国人強制労働企業の獲得国庫補助」	『戦争責任研究』54	2006.12
134	新井敦志	「判例研究 第二次世界大戦中の強制連行・強制労働と安全配慮義務論・期間制限論—広島高判平成 16.7.9 を素材として」	『立正法学論集』39-2	2006
135	中村一成	「視点 問われるべきは、問題の起源である ウトロ—棄て置かれた戦後補償問題」	『インパクション』150	2006
136	五十嵐正博	「日本の「戦後補償裁判」と国際法」	『法の科学』37	2006
137	内田雅敏	「中国人強制連行・鹿島建設「花岡鉦山事件」	『軍縮問題資料』314	2007.1
138	小林保夫	「京都大江山 中国人強制連行・強制労働事件—裁判官の人権感覚・歴史認識を問う」	『軍縮問題資料』314	2007.1
139	足立修一	「中国人強制連行・西松建設裁判(広島安野)」	『軍縮問題資料』315	2007.2
140	石川多加子	「戦後補償に関する憲法的考察」	『法律論叢』79-2/3	2007.3
141	五十嵐正博	「戦後補償裁判 最高裁は国際法の発展に寄与できるか—日華平和条約・日中共同声明と中国「国民」の請求権」	『世界』763	2007.4
142	土屋公献、高木喜孝、高橋融 他	「戦後補償裁判 座談会 最高裁は何を切り捨てようとしているのか」	『世界』763	2007.4
143	田中貴文	「中国人強制連行・強制労働事件 北海道訴訟」(法廷で裁かれる日本の戦争責任(18))	『軍縮問題資料』317	2007.4
144	富森啓兒	「中国人強制連行・強制労働事件 長野訴訟」(法廷で裁かれる日本の戦争責任(19))	『軍縮問題資料』317	2007.4
145	高木喜孝	「戦後補償裁判は一五年で何を獲得したか」	『中帰連』40	2007.春
146	高木喜孝	「2006 年における戦後補償裁判の現況—日中共同声明により中国国民の請求権は放棄されたか」	『戦争責任研究』56	2007.6

147	五十嵐正博	「中国人強制連行西松事件の最高裁弁論」(ロー・ジャーナル)	『法学セミナー』52-6	2007.6
148	成見幸子	「三菱・横峰鉱山中国人強制連行・強制労働事件(宮崎訴訟)」(法廷で裁かれる日本の戦争責任(25))	『軍縮問題資料』320	2007.7
149	高木喜孝	「中国政府は中国国民の請求権を放棄したか?—西松建設・中国人強制連行強制労働事件の最高裁第二小法廷判決(2007年4月27日)について」	『中国研究月報』61-7	2007.7
150	金子美晴	「もうひとつの歴史」を考える—中国人戦後補償裁判の取り組みから」	『歴史地理教育』716	2007.7
151	西埜章	「最近の戦後補償訴訟裁判例にみる国家無答責原則について」(『憲法諸相と改憲論—吉田善明先生古稀記念論文集』所収)	敬文堂	2007.8
152	足立修一	「中国人強制連行西松裁判の最高裁判決を受けて」	『労働運動研究』401	2007.8
153	川島真	「戦後補償問題と歴史学の役割について—日中関係を中心に」	『歴史評論』689	2007.9
154	泉澤章	「中国人戦後補償裁判における個人請求権放棄問題と最高裁二〇〇七年四月二七日判決」(『遠藤光男元最高裁判所判事喜寿記念文集』第1編、所収)	遠藤光男元最高裁判所判事喜寿記念文集編集委員会	2007.9
155	足立修一	「西松建設中国人強制連行・強制労働事件の最高裁判決批判と今後の闘いの展望—西松建設は最高裁の勧告を誠実に実行すべきです」(法廷で裁かれる日本の戦争責任(27))	『軍縮問題資料』322	2007.9
156	塚本登	「高校の授業 日本史 人道に反する罪に時効はない—高校生は戦後補償裁判をどうみているか」	『歴史地理教育』719	2007.9
157	吉田邦彦	「戦後補償の民法的諸問題(上)(下)—補償理論及び掘り起こし被害者の視点からの再検討」	『判例時報』1976 1977	2007.10.11 2007.10.21
158	管健強	「日中共同声明五項の解釈を誤った四・二七歳高裁判決を批判する」	『戦争責任研究』58	2007.12
159	新井敦志	「続・リーガル・マインドに関する覚書—第二次世界大戦中の強制連行・強制労働訴訟の判例研究を素材として」	『立正法学論集』40-2	2007
160	板倉美奈子	「判例紹介 強制連行・強制労働に対する企業の責任と請求権放棄条項—西松建設事件(最高裁判所第2小法廷 2007(平成19).4.27判決・裁時1435号12頁)」	『国際人権』18	2007
161	島田広	「富山地裁・朝鮮女子勤労挺身隊不二越第2次訴訟—強制労働・強制連行を明確に認定」(法廷で裁かれる日本の戦争責任(32))	『軍縮問題資料』326	2008.1
162	今村嗣夫、高橋哲哉	「巻頭対談 戦後補償問題からみた日本」	『現代の理論』14	2008 新春
163	在間秀和	「最高裁で初めて国へ賠償命令—三菱重工広島元微用工在韓被爆者補償請求訴訟」(法廷で裁かれる日本の戦争責任(33))	『軍縮問題資料』327	2008.2
164	山田勝彦	「東京シンポ 「戦後補償裁判」が未来に果たす役割とは何か」	『法と民主主義』426	2008.2/3

165	福留範昭、亘明志	「強制動員被害者の遺骨返還」(戦後補償問題における運動と記憶(3))	『長崎ウエスレヤン大学地域総合研究所研究紀要』6-1	2008.3
166	五十嵐正博	「サンフランシスコ条約と中国—最高裁判決の「サンフランシスコ条約枠組み論」	『法律時報』80-4	2008.4
167	申惠	「国際人道法違反の被害者救済をめぐる理論動向と展望」	『法律時報』80-4	2008.4
168	辛崇陽	「西松建設会社事件に関する最高裁判決の枠組み論について[2007.4.27]」	『法律時報』80-4	2008.4
169	張新軍	「最高裁4.27判決における解釈の一貫性問題について[2007]」	『法律時報』80-4	2008.4
170	藤田久一	「国際人道法と個人請求権」	『法律時報』80-4	2008.4
171	泉澤章	「国内裁判所における請求権放棄論の系譜と最高裁4.27判決[2007]」	『法律時報』80-4	2008.4
172	古谷修一	「主権免除と戦後補償」	『法律時報』80-4	2008.4
173	高木喜孝	「日中共同声明第五項のウィーン条約法条約の原則による司法解釈—西松建設・中国人強制連行強制労働事件の最高裁(第二小法廷)判決(2007.4.27)について」	『法律時報』80-4	2008.4
174	高橋融	「日中国交正常化の交渉過程は、まだ「公知の事実」とは言えない—最高裁西松判決批判[2007.4.27]」	『法律時報』80-4	2008.4
175	菅原秀	『ドイツはなぜ「和解」を求めるのか—謝罪と戦後補償への歩み』	同友館	2008.5
176	五十嵐正博	「戦後補償裁判の法理と個人の人權」	『法律時報』80-5	2008.5
177	亘明志、長崎ウエスレヤン大学	『離島における記憶の伝承と日韓海上交流史—老岐朝鮮人海難事故をめぐる』	文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書	2008.6
178	五十嵐正博	「戦後補償裁判の課題」	『中帰連』44	2008.6
179	外塚功	「中国人強制連行・強制労働山形訴訟—初めて国家無答責を排斥し、国と会社の共同不法行為責任を認定」(法廷で裁かれる日本の戦争責任(37))	『軍縮問題資料』331	2008.6
180	金子厚二	「中国人強制連行・強制労働群馬事件と西松建設事件最高裁四・二七判決」(法廷で裁かれる日本の戦争責任(38))	『軍縮問題資料』331	2008.6
181	林伯耀	「大事な他者を見失わないために—花岡和解を戦後補償の突破口に」	『世界』780	2008.7
182	国立国会図書館調査及び立法考査局編	「日本関係情報 アメリカ 第2次大戦中の日本の強制労働に対する補償法案提出」	『外国の立法』236	2008.7
183	高木健一	「日本に対する戦後補償運動の経緯と展望」(中川淳司、寺谷広司 編『国際法学の地平—歴史、理論、実証』大沼保昭先生記念論文集、所収)	東信堂	2008.11
184	足立修一	「西松建設中国人強制連行最高裁判決について[2007.4.27]」	『法と民主主義』433	2008.11

185	泉澤章	「戦後補償裁判における請求権放棄論と最高裁2007.4.27判決」	『国際人権』19	2008
186	高貫康稔	「日本の加害責任と戦後補償」(高橋真司、舟越歌一編『ナガサキから平和学する!』所収)	法律文化社	2009.1
187	稲村晴夫	「中国人強制連行・強制労働 福岡二陣訴訟-福岡高裁における和解所見と全面解決を求める活動について」(法廷で裁かれる日本の戦争責任(42))	『軍縮問題資料』338	2009.1
188	内藤光博	「戦後補償問題と平和主義」(浦田一郎、清水雅彦、三輪隆 編『平和と憲法の現在-軍事によらない平和の探究』 明治大学軍縮平和研究所共同研究プロジェクト (徳馬双書3)所収)	明治大学軍縮平和研究所	2009.4
189	佐藤健生	「記憶を未来につなぐ責任-ドイツ戦後補償の中間総括」	『世界』789	2009.4
190	ギュンター ザートホフ、佐藤健生	「インタビュー 戦後補償という基礎を築いて未来へ歩む-ドイツ「記憶・責任・未来」財団理事に聞く」	『世界』789	2009.4
191	永村誠郎	「中国人強制連行・強制労働事件全面解決への展望」	『戦争責任研究』64	2009.6
192	梶村太郎	「西松和解」実現-司法を越え戦後補償」	『金曜日』787	2009.10.30
193	吉田邦彦	「中国人強制連行和解の現状と課題-花岡和解の問題点を中心として」(1) (2) (3)・完	『書齋の窓』 588 589 590	2009.10 2009.11 2009.12
194	野添憲治	『企業の戦争責任-中国人強制連行の現場から』	社会評論社	2009.12
195	本庄十喜	「戦後補償運動の展開とその諸相-一九七〇年前後の入管闘争期を中心に」	『人民の歴史学』182	2009.12
196	内田雅敏	「最高裁付言を生かして和解へ 中国人強制連行事件-ドイツ型財団設立による全面解決へのステップに」(弁護士のつぶやき(17))	『月刊 times』33-10	2009.12
197	内田雅敏	「父は先月亡くなったばかり 悔やまれる空白の歳月-西松建設中国人強制連行・強制労働事件和解、青島で報告集会」(弁護士のつぶやき(18))	『月刊 times』34-1	2010.1
198	高木喜孝、内田雅敏、森田太三 他	「座談会 中国人強制連行問題-戦後補償をどう実現するか」	『世界』800	2010.1
199	内藤光博	「日本の戦後補償裁判と植民地支配」(笹川紀勝、金勝一、内藤光博 編『日本の植民地支配の実態と過去の清算-東アジアの平和と共生に向けて』(ICU 21世紀 COE シリーズ; 第8巻)所収)	風行社	2010.3
200	重本直利	「強制連行企業が果たすべき「企業の経済的責任(CER)」と戦後補償責任について」	『社会経営学研究』9	2010.3
201	金井厚二、妻	「中国人強制連行最高裁西松建設広島安野発電所事件判決(2007.4.27)およびこれに追従するその後の判決に対する批判と判決後の展望について-妻との会話」(法廷で裁かれる日本の戦争責任(46))	『軍縮問題資料』354	2010.6
202	鈴木賢士	「中国人強制連行-全面解決へ一歩」	『ひろばユニオン』581	2010.7

203	佐々木孝夫	「中国人戦争被害者と戦後補償」(現代史の学習 22 テーマ—授業と資料)	『歴史地理教育』762	2010.7
204	三菱広島・元微用工被爆者裁判を支援する会 編.	『「恨」三菱・広島・日本—46 人の韓国人微用工被爆者』	創史社	2010.8
205	高木喜孝	「戦後補償裁判の現況と今後の課題」	『軍縮問題資料』357	2010.9
206	康健	「戦争賠償請求の請求権喪失を前提とする西松建設信濃川「和解」について」	『戦争責任研究』69	2010.9
207	中田正義	「浮島丸事件公式陳謝等請求訴訟—京都地裁で 3 件目の(一部)勝訴判決」(法廷で裁かれる日本の戦争責任(47))	『軍縮問題資料』357	2010.9
208	松岡肇	「判決報告 中国人強制連行 福岡・宮崎・長野・酒田訴訟」	『軍縮問題資料』358	2010.10
209	高橋融	「全国強制連行強制労働事件判決一覧表の説明」	『軍縮問題資料』358	2010.10
210	内田雅敏	「中国人強制連行・広島安野和解報告」	『軍縮問題資料』358	2010.10
211	高橋融	「「中国人強制連行・強制労働補償基金」の提案」	『軍縮問題資料』359	2010.11
212	森田大三	「西松建設・信濃川訴訟和解報告」	『軍縮問題資料』359	2010.11
213	南典男	「戦後補償問題の現段階と展望」	『中帰連』48	2010.11
214	内田正敏	「西松広島安野和解の現在」	『戦争責任研究』70	2010.12
215	松岡肇	「中国人強制連行・強制労働事件と西松建設信濃川和解について」	『戦争責任研究』70	2010.12
216	矢野秀喜	「朝鮮人強制労働被害者補償法」	『軍縮問題資料』360	2010.12
217	内田雅敏	「これ以上の政治の怠慢は許されない—中国人強制連行・強制労働事件判決の「付言」に見る心ある裁判官たちの苦悩と政治家の責任」	『ピープルズ・プラン』49	2010.冬
218	内田雅敏	「花岡和解から西松和解へ—中国人強制連行・強制労働「受難之碑」を「友好之碑」へ」	『立命館法学』333/334	2010
219	李恩民	「日中間の歴史和解は可能か—中国人強制連行の歴史和解を事例に」	『境界研究』1	2010
220	川原洋子	「中国人強制連行被害者と西松建設が和解」	『部落解放』630	2010
221	坪田典子	「被害と加害のリアリティ 過去への責任—花岡「和解」を事例として」	『理論と動態』3	2010
222	佐藤健生、ノルベルト・フライ 編	『過ぎ去らぬ過去との取り組み—日本とドイツ』	岩波書店	2011.1
223	康健、耿春梅訳	「中国人強制連行・強制労働の「和解」案に関する考察」	『戦争責任研究』71	2011.3
224	亘明志	「嵯峨芦辺湾朝鮮人海難事故をめぐる新たな展開と課題」	『長崎ウエスレヤン大学地域総合研究所研究紀要』9-1	2011.3
225	大野友也	「若手研究者が読み解く平和憲法(5)—「戦後補償問題」から行き当たった憲法問題」	『法と民主主義』458	2011.5
226	有光健	「戦後補償 歴史の清算と救済を」	『ひろばエッセイ』594	2011.8
227	古庄正	「足尾銅山・朝鮮人戦時動員の企業責任—村上安正氏の批判に答える」	『在日朝鮮人史研究』41	2011.10

228	山田勝彦	「中国人戦後補償裁判の現場から—日本の司法の限界が露わに」	『法と民主主義』463	2011.11
229	重本直利	「企業の過去責任、戦後補償責任を問う—CSR への問い」	『市民の科学』3	2011
230	矢野秀喜	「戦後補償立法運動(対韓国人被害者)のための覚書」	『市民の科学』3	2011
231	西埜章	「国家無答責法理の歴史の変遷と戦後補償」	『公法研究』73	2011
232	山元研二	「戦後補償問題に関する授業開発の研究—地域から世界を 過去から現在を考える」	『社会科教育研究』112	2011
233	有光健	「戦後補償—政治主導で解決急げ」(アジアに生きる日本(5))	『ひろばユニオン』601	2012.3
234	田中宏、中山武敏、有光健 他	『未解決の戦後補償—問われる日本の過去と未来』	創史社	2012.8
235	大谷武夫	「ここまで来た戦後補償問題」	『歴史地理教育』794	2012.9
236	吉澤文寿	「日韓請求権協定と戦後補償問題の現在—第2 条条文化過程の検証を通して」	『平和研究』38	2012
237	青柳敦子編	『浮島丸事件訴訟と全承烈さん—遺骨問題の新たな展開に向けて』改定版	宋斗会の会	2013.1
238	中川敏宏	「韓国大法院・旧三菱戦後補償請求事件判決[大法院2012.5.24]」(判例研究)	『専修ロージャーナル』8	2013.1
239	矢野秀喜	「強制動員真相究明第6回全国研究会 強制労働被害者補償立法をめざす日韓共同行動」	『統一評論』571	20013.5
240	古庄正	『足尾銅山・朝鮮人強制連行と戦後処理』	創史社	2013.6
241	田中宏	「在日の戦後補償問題」	『戦争責任研究』80	2013.6
242	内田雅俊	「和解はどのような可能性を拓くか—中国人強制連行・強制労働事件に向き合った裁判官たち」	『世界』848	2013.10
243	太田修	「もはや“日韓請求権協定で解決済み”ではすまされない—朝鮮人強制動員被害者への戦後補償をめぐる」	『世界』848	2013.10
244	内海愛子	「戦後補償」(和田春樹、内海愛子、金泳鎬、李泰鎮編『日韓歴史問題をどう解くか—次の100年のために』所収)	岩波書店	2013.12
245	本庄十喜	『日本国内における戦後補償運動の歴史的展開と「加害者認識」の形成過程』	博士論文(明治大学)	2013
246	瑞慶山茂 責任編集	『法廷で裁かれる日本の戦争責任—日本とアジア・和解と恒久平和のために』	高文研	2014.3
247	崔鳳泰	「2013 年を振り返り、2014 年の課題・展望を考える—韓国における戦後補償裁判の成果と課題」(公開フォーラム 戦後補償裁判の到達点と今後の課題 2014)	『統一評論』580	2014.3
248	柴山健太郎	「新しい局面に入ったアジア太平洋戦争中の戦後補償訴訟—ドイツに学ぶ戦時中の強制労働補償の先進例」	『進歩と改革』750	2014.6
249	川上詩朗	「なぜ戦後補償が求められているのか」	『世界』860	2014.9

250		「安野発電所への中国人強制連行—和解までの道のり, 50年目の叫び—広島・安野への中国人強制連行の真相」(映像資料)	西松安野友好基金運営委員会	2014.10
251	松岡肇	『日中歴史和解への道—戦後補償裁判からみた「中国人強制連行・強制労働事件」』	高文研	2014.12
252	ロー ダニエル	「日韓外交正常化 50年—徴用工賠償問題と「1965年体制」の風化」	『外交』30	2015.3
253	崔鳳泰、李一満 訳	「公開フォーラム 「戦後 70年」・戦後補償裁判の現状と今後の課題 韓国戦後補償裁判の現状と課題—1965年請求権協定を超えて」	『統一評論』592	2015.4
254	杉原達	「中国人強制連行・西松安野和解事業とその意義—『和解報告書』の刊行によせて」	『歴史学研究』931	2015.5
255	矢野秀喜	「トークセッション「未解決の戦後補償」を考える—どうする?未解決の戦後補償 2015・朝鮮人強制連行問題について」	『統一評論』593	2015.5/6
256	藤田久一	「戦争犯罪と戦後補償」(小菅信子 編『原典でよむ 20世紀の平和思想』(岩波現代全書 066)所収)	岩波書店	2015.6
257	高田雅士	「日中戦争における日本の加害と戦後補償に関する教科書記述の変遷」	『人民の歴史学』204	2015.6
258	朴中鉉、三橋広夫 訳	「韓国・高校 韓日条約と戦後補償問題」	『歴史地理教育』835	2015.6
259	有光健	「「戦後 70年」・未解決の戦後補償」(中山武敏、松岡肇、有光健 他著『戦後 70年・残される課題: 未解決の戦後補償 2』所収)	創史社	2015.8
260	矢野秀喜	「植民地主義清算と東アジアの平和態勢構築—戦後補償運動の現場から考える」	『情況』4-8	2015.10
261	出石直	「戦後補償訴訟における元徴用工問題と日韓関係」	『現代韓国朝鮮研究』15	2015.11
262	張完翼、野木香里 訳	「強制動員に関する韓国大法院判決の経過と現状」	『戦争責任研究』85	2015.12
263	柴山健太郎	「アジア・太平洋戦争中の強制連行問題 難航する三菱マテリアルと中国人元労働者の包括和解交渉—注目される韓国人元労働者の徴用賠償訴訟の展開」	『進歩と改革』769	2016.1
264	栗原俊雄	『戦後補償裁判—民間人たちの終わらない「戦争」』(NHK出版新書 489)	NHK出版	2016.6
265	有田純也	「日韓戦後補償を考えるツアーに参加して」	『進歩と改革』774	2016.6
266	内田雅俊	「和解の新たな可能性を切り拓く—三菱マテリアル 中国人強制労働事件和解」	『世界』884	2016.7
267	本庄十喜	「戦後補償問題の歴史的展開と加害者認識」	『日本の科学者』51-8	2016.8
268	内田雅俊	「交渉・裁判闘争から和解へ 「安心供与」で日中友好促進を—三菱マテリアルの誠意が通じた中国人強制労働事件」	『月刊 times』40-8	2016.10
269	内海愛子	「サンフランシスコ平和条約—戦争裁判・戦後補償から考える」	『早稲田平和学研究』9	2016

270	墨面	「『中国人強制連行問題』の全面解決に向けて、三菱マテリアルとの勝利和解に続き 大阪・花岡 国賠訴訟に勝利しよう!」	『科学的社会主義』222	2016.10
271	大場尚文	「責任追及、和解か訴訟か 火種残る強制連行問題：中国」（特派員リレー報告(59)）	『メディア展望』659	2016.11
272	重本直利	「強制連行企業の戦後補償責任」（李洙任，重本直利編著『共同研究安重根と東洋平和—東アジアの歴史をめぐる越境的対話』（龍谷大学社会科学研究所叢書；第116巻）所収）	明石書店	2017.3
273	吉田邦彦	『東アジア民法学と災害・居住・民族補償—民法理論研究』第6巻中編（学術選書140，民法）	信山社	2017.8
274	田中宏、中村一成	「インタビュー 「共生」を求めて(第6回)—戦後補償裁判」	『部落解放』746	2017.9
275	新福悦郎	「戦後補償問題と歴史認識育成についての一考察—判決書教材活用授業による感想文を分析して」	『石巻専修大学研究紀要』29	2018.3
276	山元研二、梅野正信	「戦後補償問題の授業開発に関する研究—判決書教材活用の視点から」	『上越教育大学研究紀要』37-2	2018